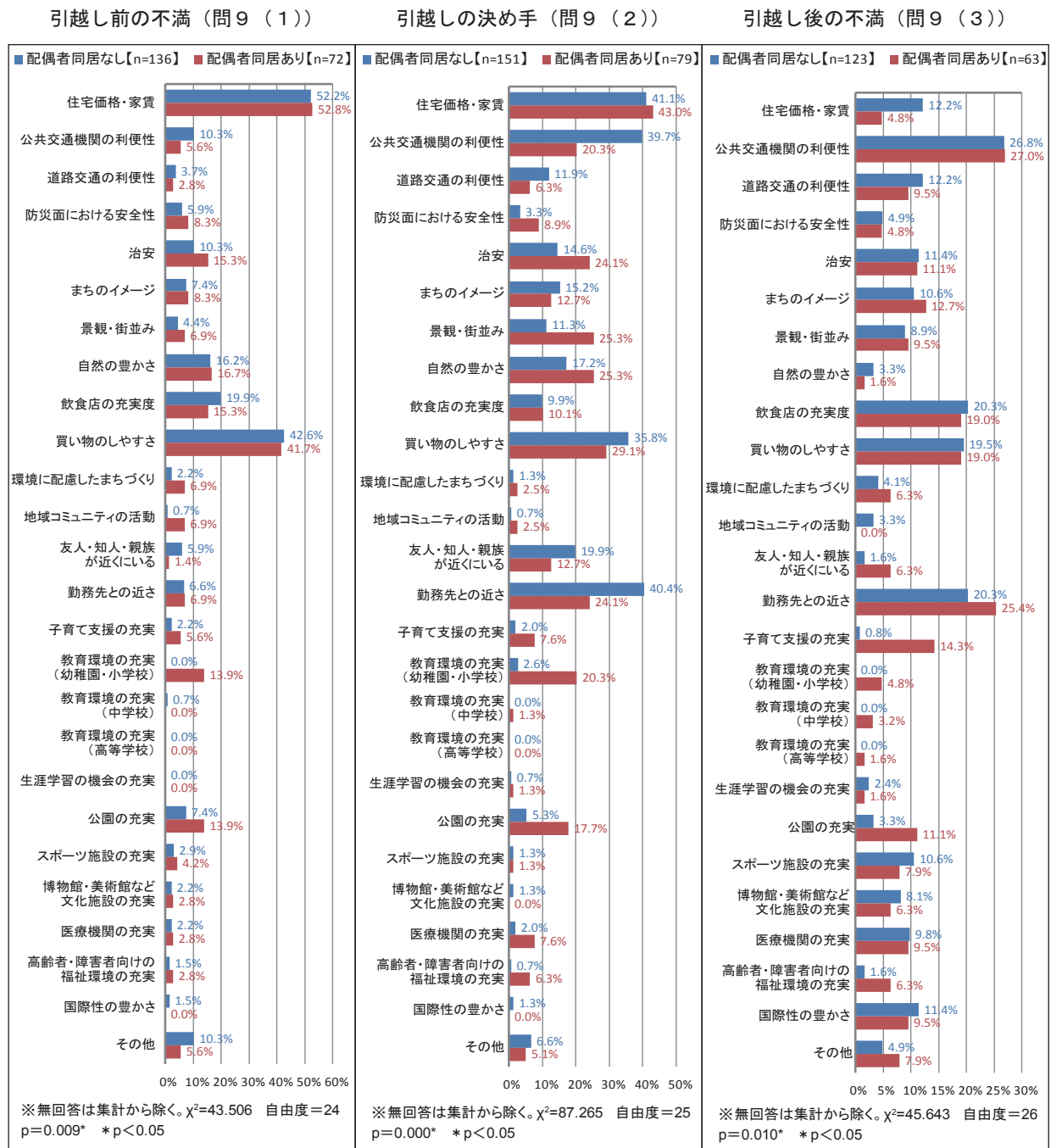


図表3-2-2-4 引越し前の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満



（オ）引越し前の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

転出

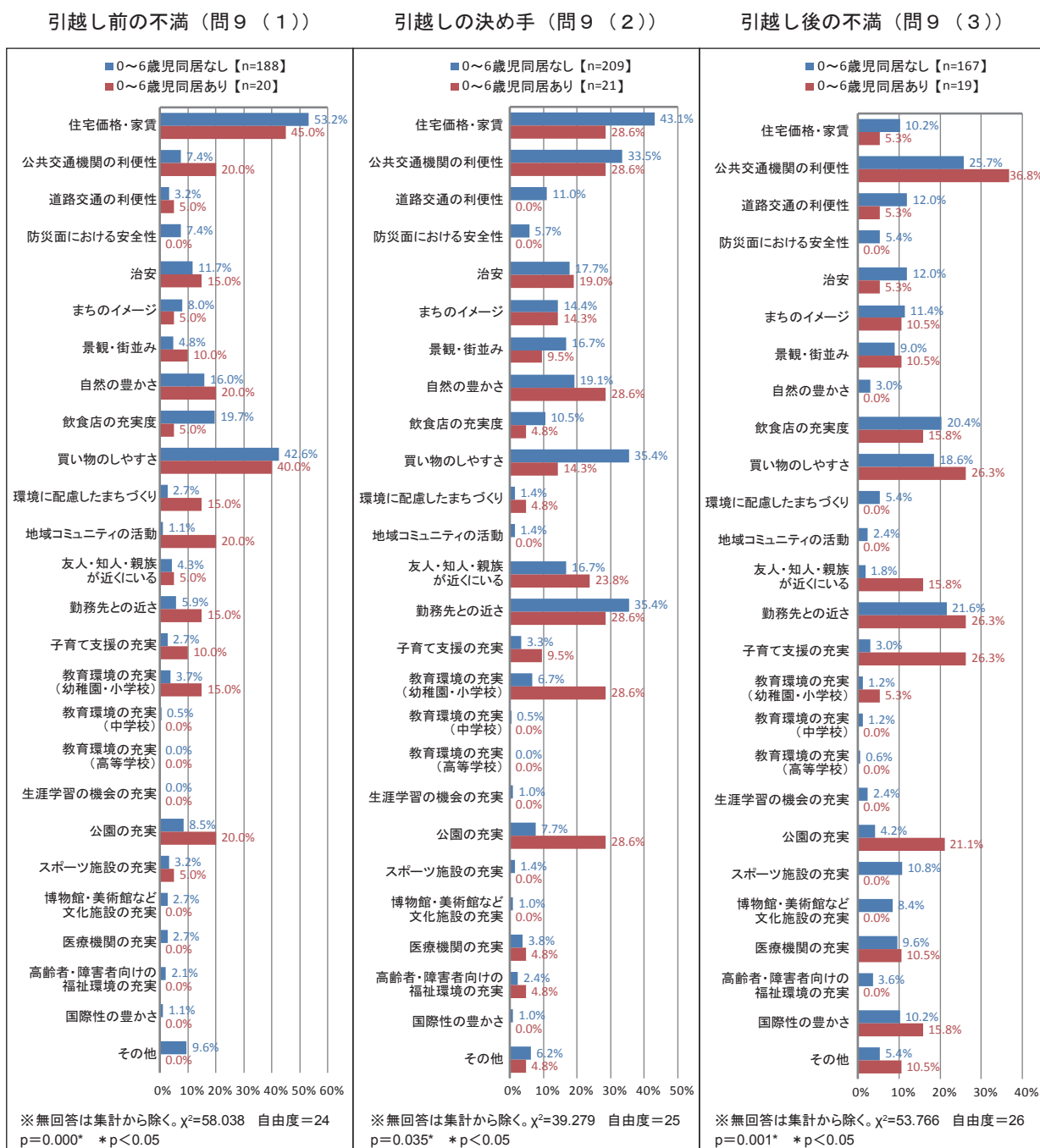
「0～6歳児同居あり」は教育環境を重視しており、港区に対する評価は高い。

■調査結果

「0～6歳児同居なし」の上位は引越し前の不満（問9（1））では「住宅価格・家賃」（53.2%）、「買い物のしやすさ」（42.6%）であった。引越しの決め手（問9（2））では「住宅価格・家賃」（43.1%）、「買い物のしやすさ」（35.4%）、「勤務先との近さ」（35.4%）であった。引越し後の不満（問

9（3））では「公共交通機関の利便性」（25.7%）、「勤務先との近さ」（21.6%）、「飲食店の充実度」（20.4%）であった。また、「0～6歳児同居あり」の上位は引越し前の不満（問9（1））では「住宅価格・家賃」（45.0%）、「買い物のしやすさ」（40.0%）であった。引越しの決め手（問9（2））では「住宅価格・家賃」（28.6%）、「公共交通機関の利便性」（28.6%）、「自然の豊かさ」（28.6%）、「勤務先との近さ」（28.6%）、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」（28.6%）、「公園の充実」（28.6%）であった。引越し後の不満（問9（3））では「公共交通機関の利便性」（36.8%）、「勤務先との近さ」（26.3%）、「買い物のしやすさ」（26.3%）、「子育て支援の充実」（26.3%）であった（図表3-2-2-5）。

図表3-2-2-5 引越し前の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満



■特徴

引越し前の不満（問9（1））、引越しの決め手（問9（2））、引越し後の不満（問9（3））を通じて「0～6歳児同居あり」のほうは「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」、「公園の充実」、「子育て支援の充実」など子育てに関連する生活環境の選択率が高い。「子育て支援の充実」について引越し前の不満（問9（1））は10.0%であるのに対し、引越し後の不満（問9（3））は26.3%となっており、転出先と比べて、相対的に港区の子育て支援への評価が高いといえる。

（カ）引越し後の世帯の人数別引越しの決め手・引越し前後の不満

転出

世帯の人数にかかわらず、引越し前の通勤環境への不満が少なく、世帯の人数が多いほど、引越し後の不満が多い。通勤環境への不満が転出先で解消している。

■調査結果

「単独」の上位は引越し前の不満（問9（1））では「住宅価格・家賃」（47.7%）、引越しの決め手（問9（2））では「勤務先との近さ」（44.6%）、引越し後の不満（問9（3））では「買い物のしやすさ」（24.6%）、「公共交通機関の利便性」（22.8%）であった。「2人」の上位は引越し前の不満（問9（1））では「住宅価格・家賃」（54.8%）、引越しの決め手（問9（2））では「住宅価格・家賃」（41.5%）、引越し後の不満（問9（3））では「公共交通機関の利便性」（26.6%）であった。「3人」の上位は引越し前の不満（問9（1））では「住宅価格・家賃」（58.7%）、引越しの決め手（問9（2））では「住宅価格・家賃」（50.0%）、引越し後の不満（問9（3））では「勤務先との近さ」（27.9%）であった。「4人以上」の上位は引越し前の不満（問9（1））では「買い物のしやすさ」（50.0%）、引越しの決め手（問9（2））では「住宅価格・家賃」、「治安」、「自然の豊かさ」、「公園の充実」が同率で26.9%、引越し後の不満（問9（3））では「公共交通機関の利便性」（40.9%）であった（図表3-2-2-6）。

■特徴

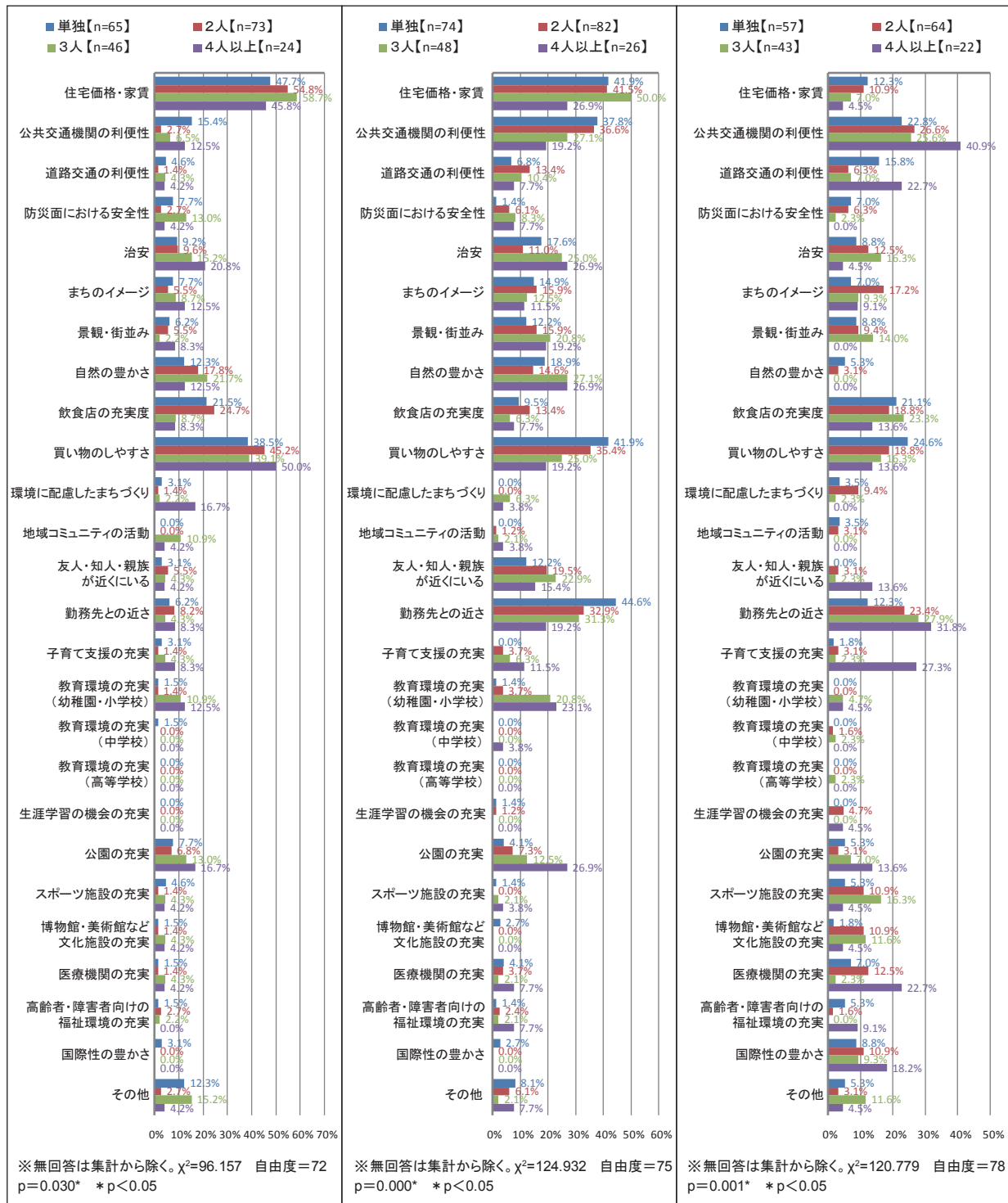
「公共交通機関の利便性」や「勤務先との近さ」に関して、引越し前の不満（問9（1））では世帯の人数にかかわらず割合が低いですが、引越し後の不満（問9（3））においては人数が多い世帯ほど引越し後の不満が多いことが伺える。

図表3-2-2-6 引越し後の世帯の人数別引越しの決め手・引越し前後の不満

引越し前の不満（問9（1））

引越しの決め手（問9（2））

引越し後の不満（問9（3））



「配偶者同居あり」は教育環境に関わる項目を重視する傾向がある。

■調査結果

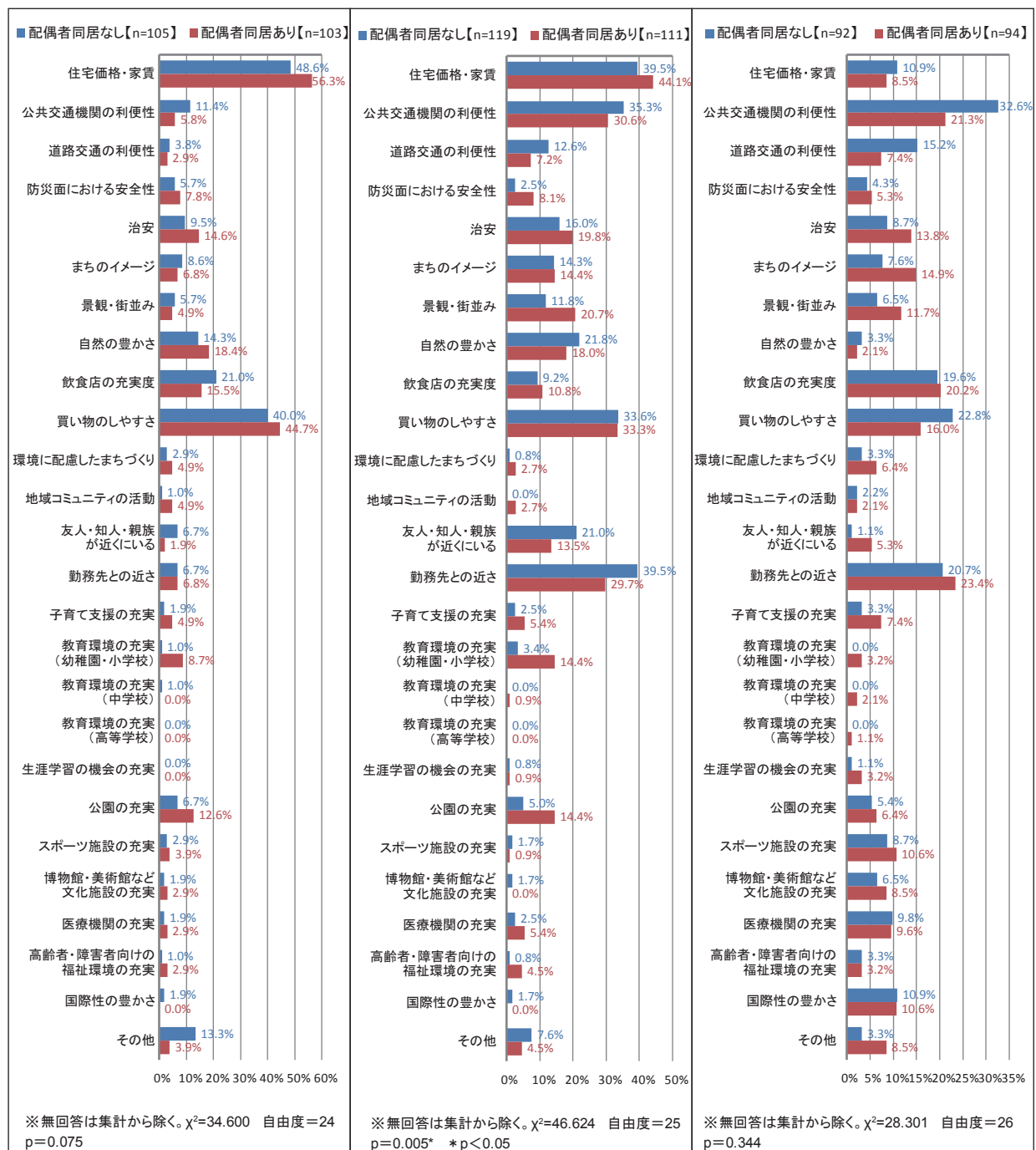
引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））に有意差はない。引越しの決め手（問9（2））について、「配偶者同居なし」は「住宅価格・家賃」（39.5%）と「勤務先との近さ」（39.5%）

図表3-2-2-7 引越し後の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

引越し前の不満（問9（1））

引越しの決め手（問9（2））

引越し後の不満（問9（3））



を最も重視している。また、「配偶者同居あり」は「住宅価格・家賃」(44.1%)を最も重視し、次いで「買い物のしやすさ」(33.3%)を重視している(図表3-2-2-7)。

■特徴

「配偶者同居あり」のほうがいくつかの環境要因や子育て環境を重視する傾向にある。具体的には「治安」、「景観・街並み」、「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」などが重視されている。

(ク) 引越し後の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

転出

「0～6歳児同居あり」のほうの子育て環境を重視しており、港区に対する不満は少ない。

■調査結果

「0～6歳児同居なし」の上位は引越し前の不満(問9(1))では「住宅価格・家賃」(51.1%)、「買い物のしやすさ」(43.1%)であった。引越しの決め手(問9(2))では「住宅価格・家賃」(42.3%)、「勤務先との近さ」(35.6%)、「買い物のしやすさ」(34.5%)であった。引越し後の不満(問9(3))では「公共交通機関の利便性」(26.1%)、「勤務先との近さ」(21.6%)、「飲食店の充実度」(20.9%)であった。また、「0～6歳児同居あり」の上位は引越し前の不満(問9(1))では「住宅価格・家賃」(58.8%)、「買い物のしやすさ」(38.2%)であった。引越しの決め手(問9(2))では「住宅価格・家賃」(38.9%)、「自然の豊かさ」(30.6%)、「勤務先との近さ」(30.6%)、「公共交通機関の利便性」(27.8%)、「買い物のしやすさ」(27.8%)、「公園の充実」(27.8%)であった。引越し後の不満(問9(3))では「公共交通機関の利便性」(30.3%)、「勤務先との近さ」(24.2%)、「買い物のしやすさ」(18.2%)、「子育て支援の充実」(18.2%)であった(図表3-2-2-8)。

■特徴

子どもがいる方が、「治安」、「景観・街並み」、「自然の豊かさ」、「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」、「子育て支援の充実」など環境要因や子育て環境を重視する傾向にある。

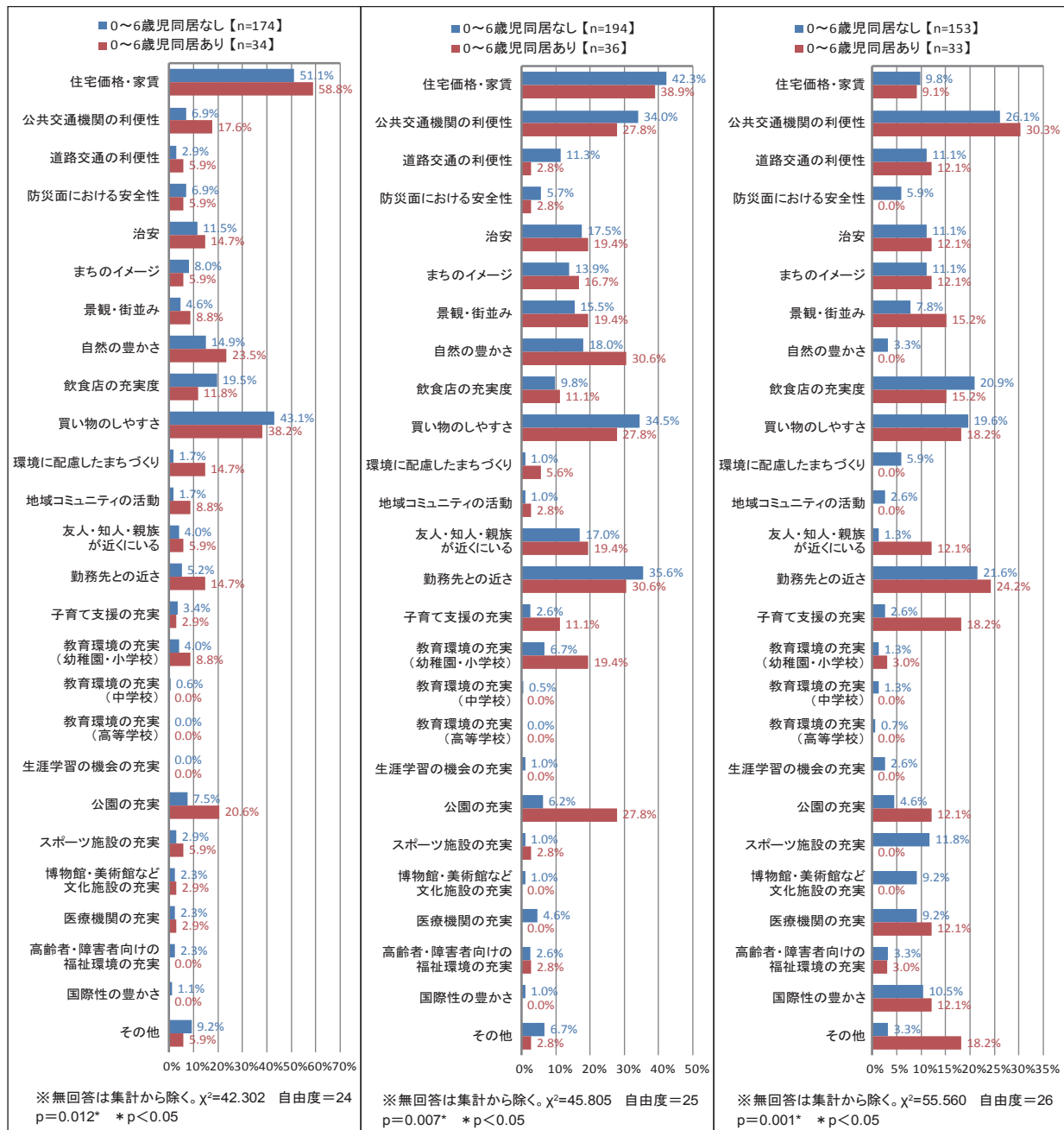
また、これらの点に関する転出前の港区に対する不満は、「公園の充実」を除けば高くない。

図表3-2-2-8 引越し後の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

引越し前の不満（問9（1））

引越しの決め手（問9（2））

引越し後の不満（問9（3））



（ケ）引越し前の住所別引越しの決め手・引越し前後の不満

転出

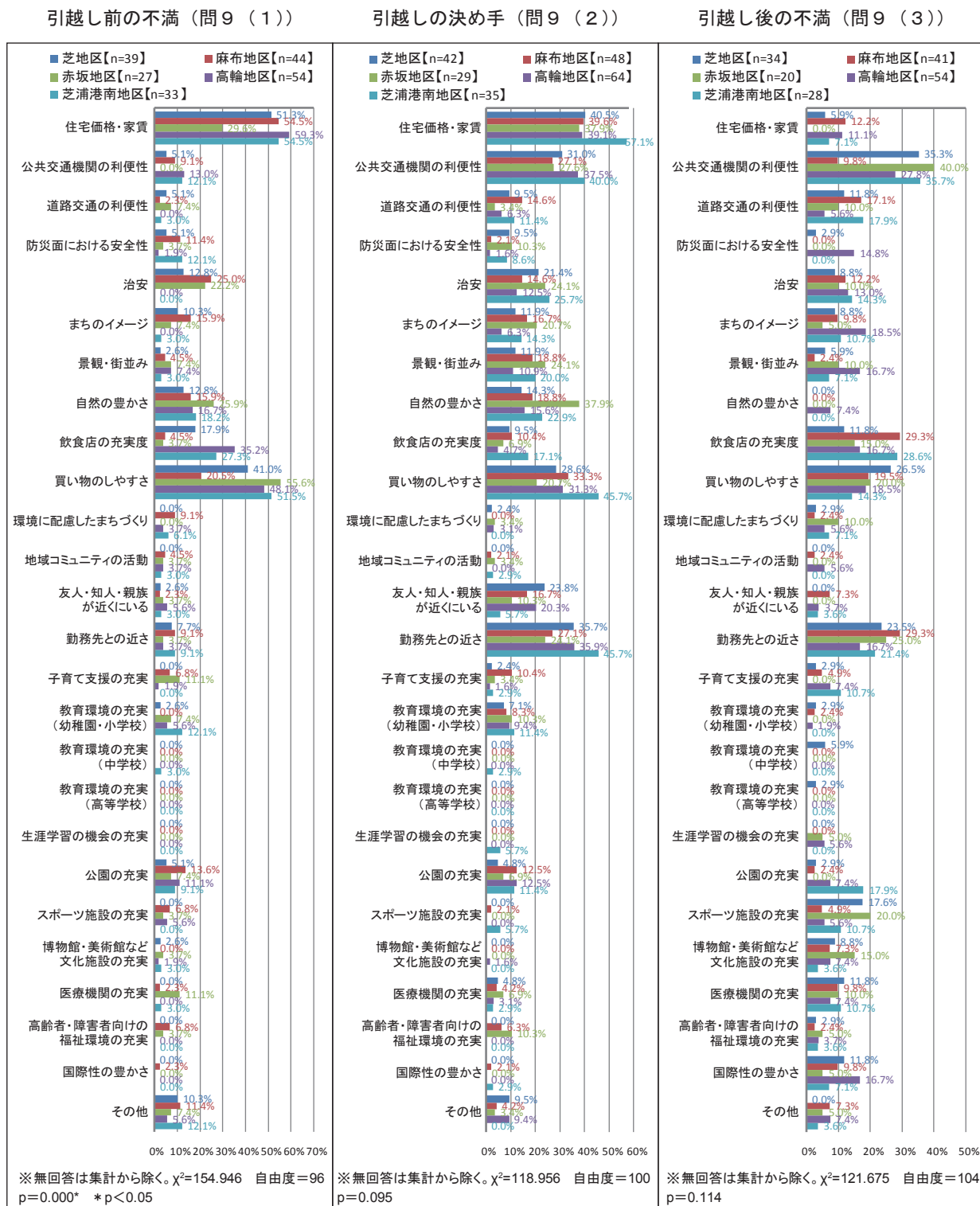
「赤坂地区」は「住宅価格・家賃」の不満の割合が相対的に低く、「麻布地区」は「買い物のしやすさ」の不満の割合が相対的に低い。また、「麻布地区」と「赤坂地区」では「治安」に対する不満がやや高い。

■集計結果

引越し前の不満（問9（1））についての結果をまとめる。「芝地区」の上位は「住宅価格・家賃」

(51.3%)、「買い物のしやすさ」(41.0%)であった。「麻布地区」の上位は「住宅価格・家賃」(54.5%)、「治安」(25.0%)であった。「赤坂地区」の上位は「買い物のしやすさ」(55.6%)、「住宅価格・家賃」(29.6%)であった。「高輪地区」の上位は「住宅価格・家賃」(59.3%)、「買い物のしやすさ」(48.1%)であった。「芝浦港南地区」の上位は「住宅価格・家賃」(54.5%)、「買い物のしやすさ」(51.5%)で

図表3-2-2-9 引越し前の住所別引越しの決め手・引越し前後の不満



あった。

引越しの決め手（問9（2））と引越し後の不満（問9（3））は引越し先についての質問であるため、引越し前住所別について集計しても統計的に有意な差はなかった（図表3-2-2-9）。

■特徴

「赤坂地区」は「住宅価格・家賃」に対する不満が他地区と比べてやや少ない。「麻布地区」は「買い物のしやすさ」に対する不満が他地区と比べて少ない。「麻布地区」と「赤坂地区」では「治安」を不満に思っている割合が他地区と比べて高い。

イ 転入

（ア）引越しの決め手・引越し前後の不満の全体傾向

転入

「住宅価格・家賃」と「買い物のしやすさ」に対する不満が港区への転入後増えている一方、通勤環境に関する不満は港区に転入後おおむね解消している。

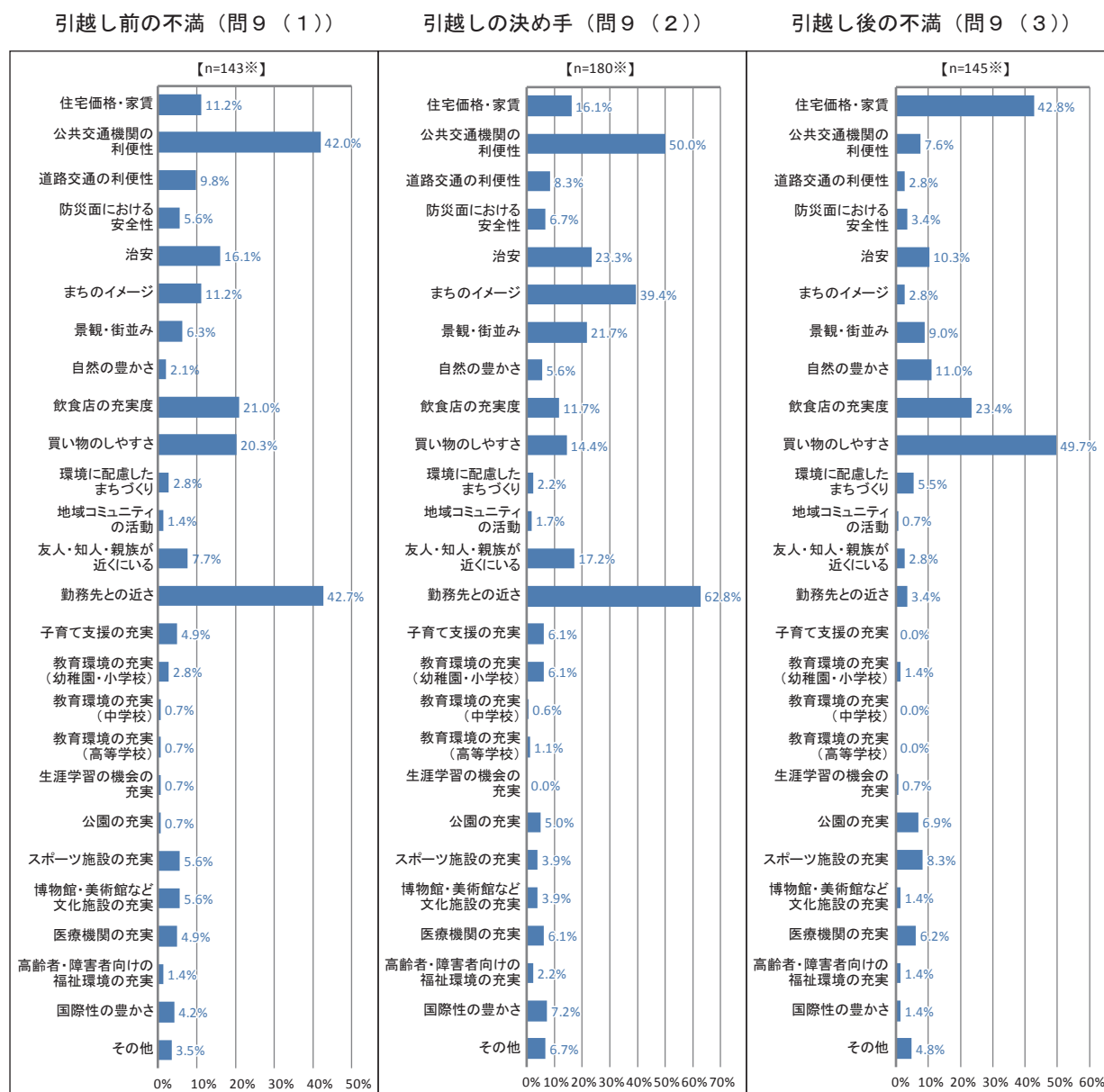
■調査結果

引越し前の不満（問9（1））では「勤務先との近さ」（42.7％）が最も多く、「公共交通機関の利便性」（42.0％）が次に多い。引越しの決め手（問9（2））では「勤務先との近さ」（62.8％）が最も多く、「公共交通機関の利便性」（50.0％）が次に多い。引越し後の不満（問9（3））では「買い物のしやすさ」（49.7％）が最も多く、「住宅価格・家賃」（42.8％）が次に多い（図表3-2-2-10）。

■特徴

「公共交通機関の利便性」と「勤務先の近さ」に不満を感じていた人が、それらを決め手にして港区に転入し、転入後それらの不満が解消されている。その一方で、「住宅価格・家賃」に対する不満を感じる人は港区への転入後増えている。また、「飲食店の充実度」や「買い物のしやすさ」について、引越し前の不満（問9（1））での割合がどちらも20％ほどあり、港区以外の自治体でもこれらの点に対して不満を感じる人は一定数存在することがわかった。引越し後の不満（問9（3））での割合をみると「飲食店の充実度」に対する不満は転入前と比べて2.4ポイント増なのに対し、「買い物のしやすさ」に対する不満は29.4ポイント増となっている。

図表3-2-2-10 引越しの決め手・引越し前後の不満の全体傾向



※無回答は集計から除いている。

(イ) 年齢別引越しの決め手・引越し前後の不満

転入

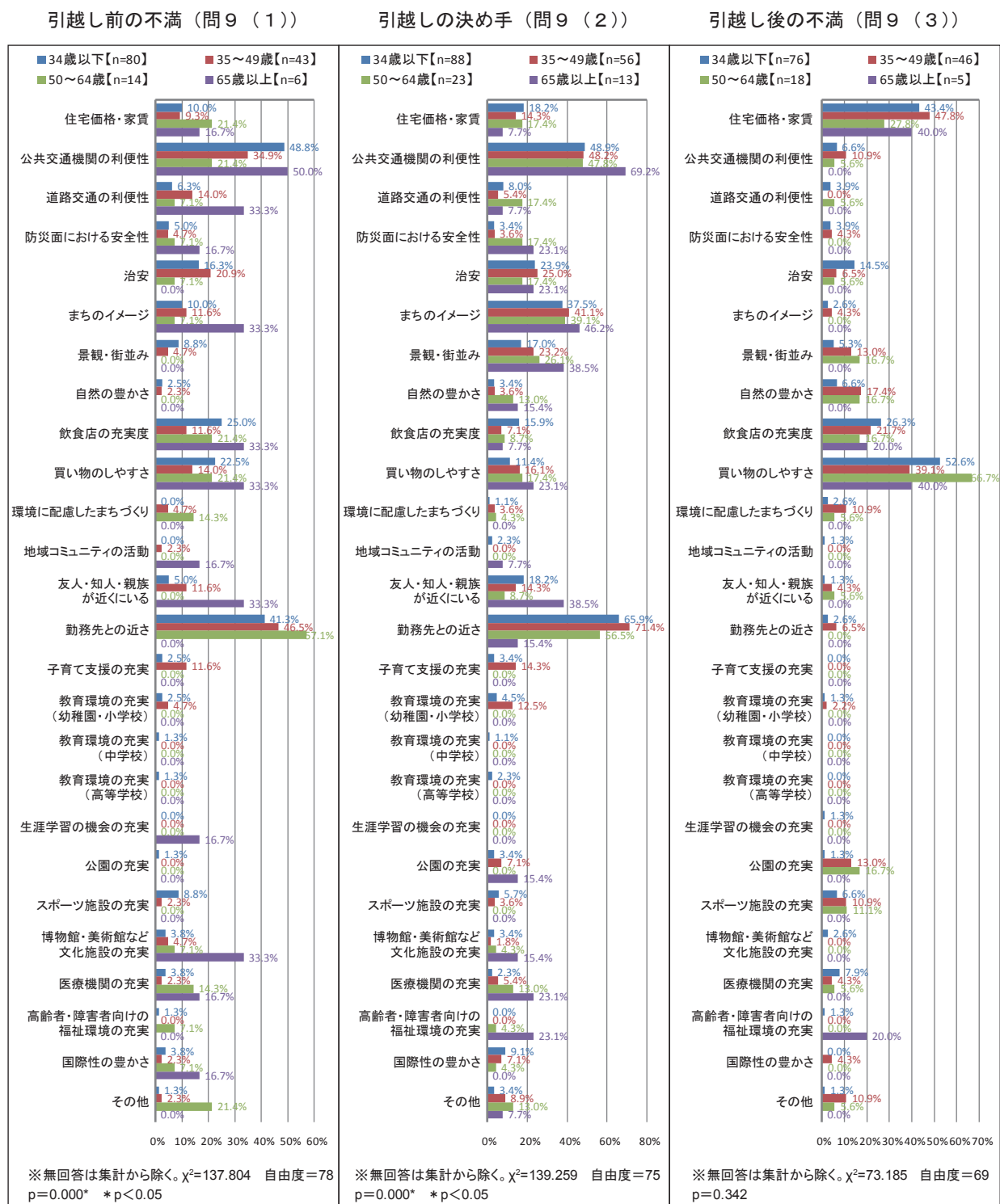
港区の「買い物のしやすさ」と「住宅価格・家賃」は全年齢層を通じた不満となっている。

■調査結果

「34歳以下」について、引越し前の不満（問9（1））では「公共交通機関の利便性」（48.8%）が最も多く、「勤務先との近さ」（41.3%）が2番目に多い。引越しの決め手（問9（2））では「勤務先との近さ」（65.9%）が最も多く、次いで多いものに「公共交通機関の利便性」（48.9%）、「まちのイメージ」（37.5%）などがある。引越し後の不満（問9（3））では「買い物のしやすさ」（52.6%）が最も多く、次いで「住宅価格・家賃」（43.4%）が多くなっている。

「35～49歳」について、引越し前の不満（問9（1））では「勤務先との近さ」（46.5%）が最も多く、「公共交通機関の利便性」（34.9%）が2番目に多い。引越しの決め手（問9（2））では最も多いのが「勤務先との近さ」（71.4%）、続いて「公共交通機関の利便性」（48.2%）、「まちのイメージ」（41.1%）などが多くなっている。引越し後の不満（問9（3））では「住宅価格・家賃」（47.8%）が最も多く、

図表3-2-2-11 年齢別引越しの決め手・引越し前後の不満



「買い物のしやすさ」(39.1%)が2番目に多くなっている。

「50～64歳」について、引越し前の不満(問9(1))では「勤務先との近さ」(57.1%)で最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」(21.4%)、「飲食店の充実度」(21.4%)、「買い物のしやすさ」(21.4%)などが多くなっている。引越しの決め手(問9(2))では「勤務先との近さ」(56.5%)が最も多く、「公共交通機関の利便性」(47.8%)や「まちのイメージ」(39.1%)などが次いで多くなっている。引越し後の不満(問9(3))では、「買い物のしやすさ」(66.7%)で最も多く、次いで「住宅価格・家賃」(27.8%)などが多くなっている。

「65歳以上」について、引越し前の不満(問9(1))では「公共交通機関の利便性」(50.0%)が最も多く、「道路交通の利便性」、「まちのイメージ」、「飲食店の充実度」、「買い物のしやすさ」、「友人・知人・親族が近くにいる」、「博物館・美術館など文化施設の充実」などが33.3%で続いている。引越しの決め手(問9(2))では「公共交通機関の利便性」(69.2%)が最も多く、「まちのイメージ」(46.2%)、「景観・街並み」(38.5%)、「友人・知人・親族が近くにいる」(38.5%)などが次いで多くなっている。引越し後の不満(問9(3))では「住宅価格・家賃」(40.0%)や「買い物のしやすさ」(40.0%)などが多い(図表3-2-2-11)。

■特徴

「買い物のしやすさ」と「住宅価格・家賃」についてはすべての年齢層における課題である。「公共交通機関の利便性」や「道路交通の利便性」を重視する高齢者は多く、港区に転入することで不満は大幅に解消している。

(ウ) 引越し前の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

転入

「配偶者同居あり」は子育て・教育環境を重視して転入している。

■調査結果

引越し前の不満(問9(1))と引越し後の不満(問9(3))に有意差はない。引越しの決め手(問9(2))について、「配偶者同居なし」は「勤務先との近さ」(66.7%)を最も重視し、次いで「公共交通機関の利便性」(51.7%)を重視している。また、「配偶者同居あり」は「勤務先との近さ」(55.0%)を最も重視し、次いで「公共交通機関の利便性」(46.7%)を重視している(図表3-2-2-12)。

■特徴

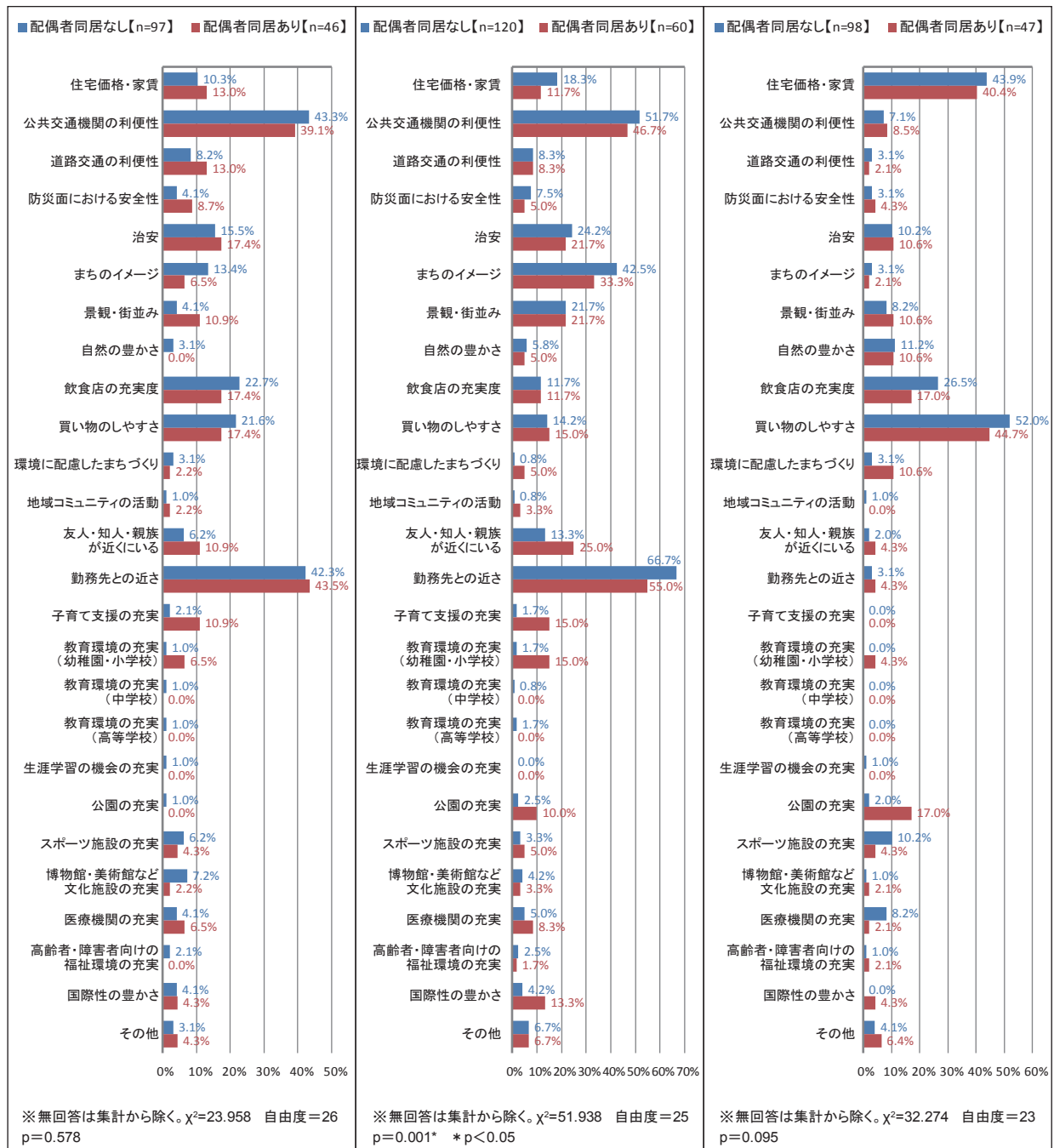
引越しの決め手(問9(2))において「配偶者同居あり」の方が「子育て支援の充実」、「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」、「国際性の豊かさ」を重視する割合が高い。

図表3-2-2-12 引越し前の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

引越し前の不満（問9（1））

引越しの決め手（問9（2））

引越し後の不満（問9（3））



（エ）引越し前の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

転入

「0～6歳児同居あり」のほうが子育て環境を重視して転入している。

調査結果

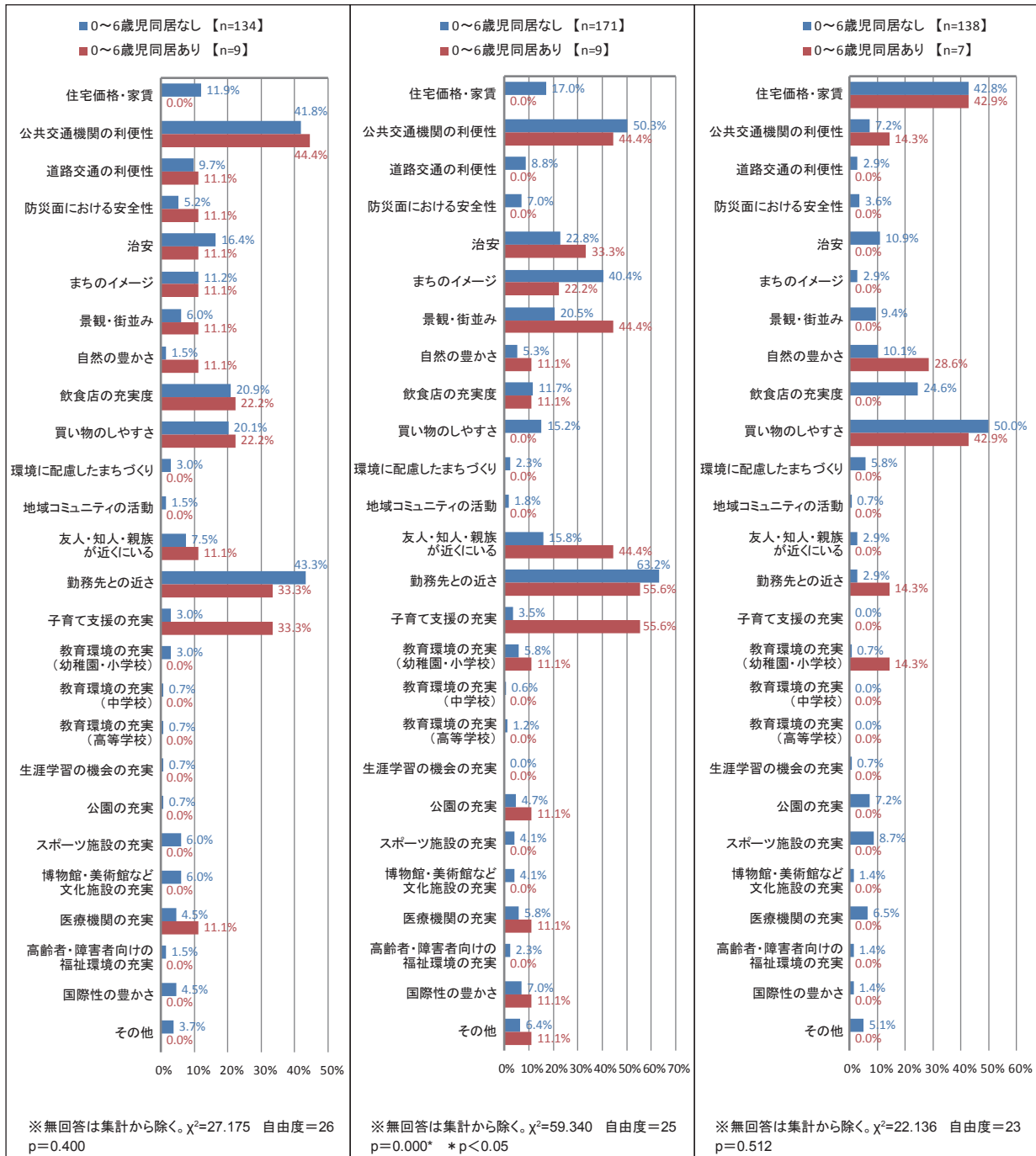
引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））に統計的な有意差はない。引越しの決め手（問9（2））において、「0～6歳児同居なし」は「勤務先との近さ」（63.2%）が最も多く、「公

公共交通機関の利便性」(50.3%) が次に多い。「0～6歳児同居あり」は「子育て支援の充実」(55.6%) と「勤務先との近さ」(55.6%) を最も重視している(図表3-2-2-13)。

■特徴

「0～6歳児同居あり」のほうが「子育て支援の充実」や「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「友人・知人・親族が近くにいる」、「医療機関の充実」など子育て環境を重視していることがわかる。

図表3-2-2-13 引越し前の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満
引越し前の不満(問9(1)) 引越しの決め手(問9(2)) 引越し後の不満(問9(3))



(オ) 引越し後の世帯の人数別引越しの決め手・引越し前後の不満

「3人」又は「4人以上」は子どものいる世帯である可能性は高く、子育て環境を重視する割合が高い。

■調査結果

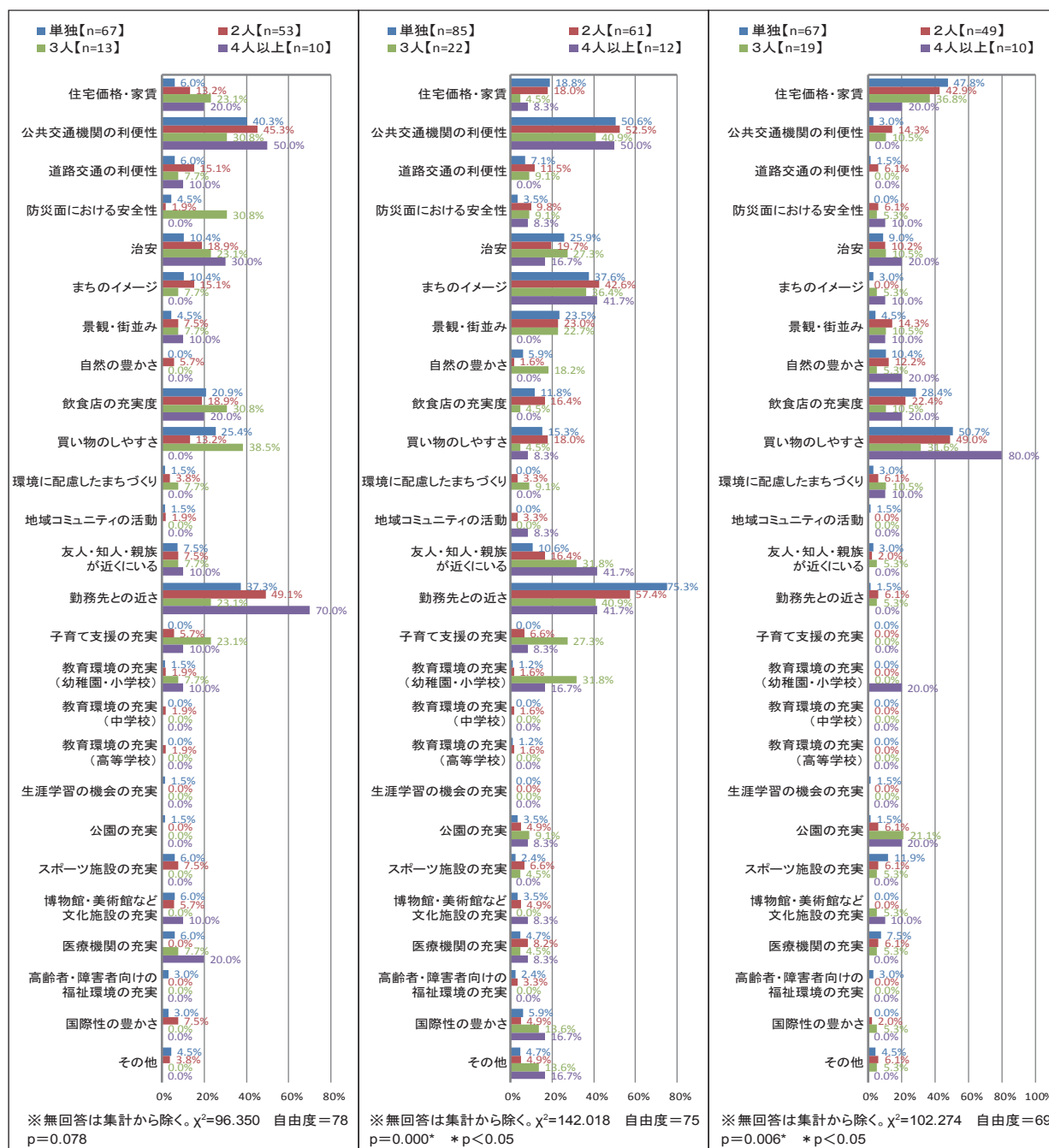
引越し前の不満（問9（1））に統計的な有意差はない。「単独」の上位は引越しの決め手（問9（2））

図表3-2-2-14 引越し後の世帯の人数別引越しの決め手・引越し前後の不満

引越し前の不満（問9（1））

引越しの決め手（問9（2））

引越し後の不満（問9（3））



(2))では「勤務先との近さ」(75.3%)、引越し後の不満(問9(3))では「買い物のしやすさ」(50.7%)であった。「2人」の上位は引越しの決め手(問9(2))では「勤務先との近さ」(57.4%)、引越し後の不満(問9(3))では「買い物のしやすさ」(49.0%)であった。「3人」の上位は引越しの決め手(問9(2))では「公共交通機関の利便性」と「勤務先との近さ」(40.9%)、引越し後の不満(問9(3))では「住宅価格・家賃」(38.6%)であった。「4人以上」の上位は引越しの決め手(問9(2))では「公共交通機関の利便性」(50.0%)、引越し後の不満(問9(3))では「買い物のしやすさ」(80.0%)であった(図表3-2-2-14)。

■特徴

「3人」又は「4人以上」は子どもがいる世帯である可能性が高く、子育て環境を重視する割合が高い。

(力) 引越し後の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

転入

「配偶者同居あり」のほうで子育て・教育環境を重視して転入している。

■調査結果

引越し前の不満(問9(1))と引越し後の不満(問9(3))に統計的な有意差はない。引越しの決め手(問9(2))において、「配偶者同居なし」は「勤務先との近さ」(69.6%)が最も多く、「公共交通機関の利便性」(50.0%)が次に多い。「配偶者同居あり」は「勤務先との近さ」(51.5%)が最も多く、「公共交通機関の利便性」(50.0%)が次に多い(図表3-2-2-15)。

■特徴

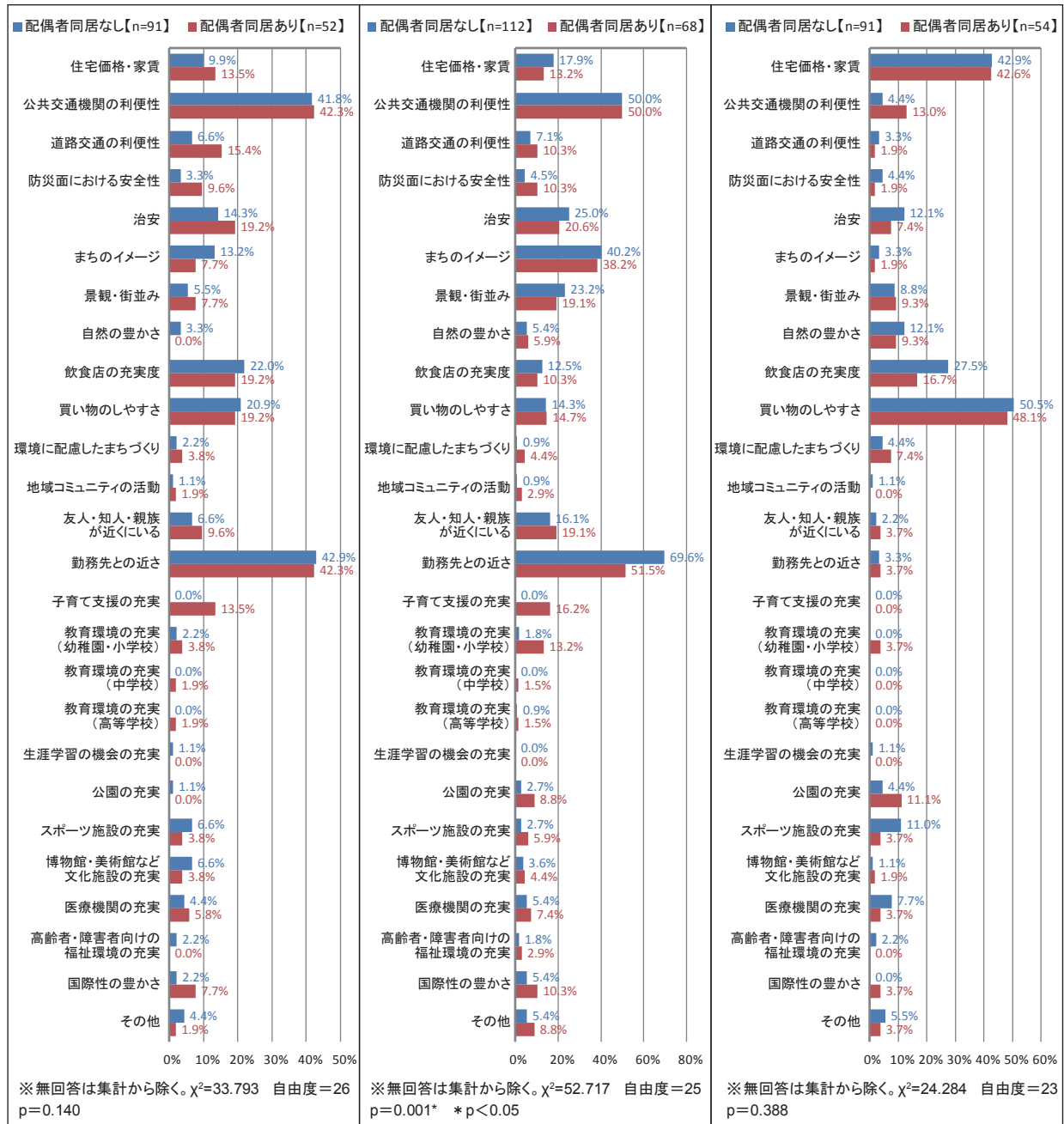
「配偶者同居あり」は「子育て支援の充実」や「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」など子育て環境をより重視している。

図表3-2-2-15 引越し後の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

引越し前の不満（問9（1））

引越しの決め手（問9（2））

引越し後の不満（問9（3））



(キ) 引越し後の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

転入

「0～6歳児同居あり」のほうが子育て環境を重視して転入している。

■調査結果

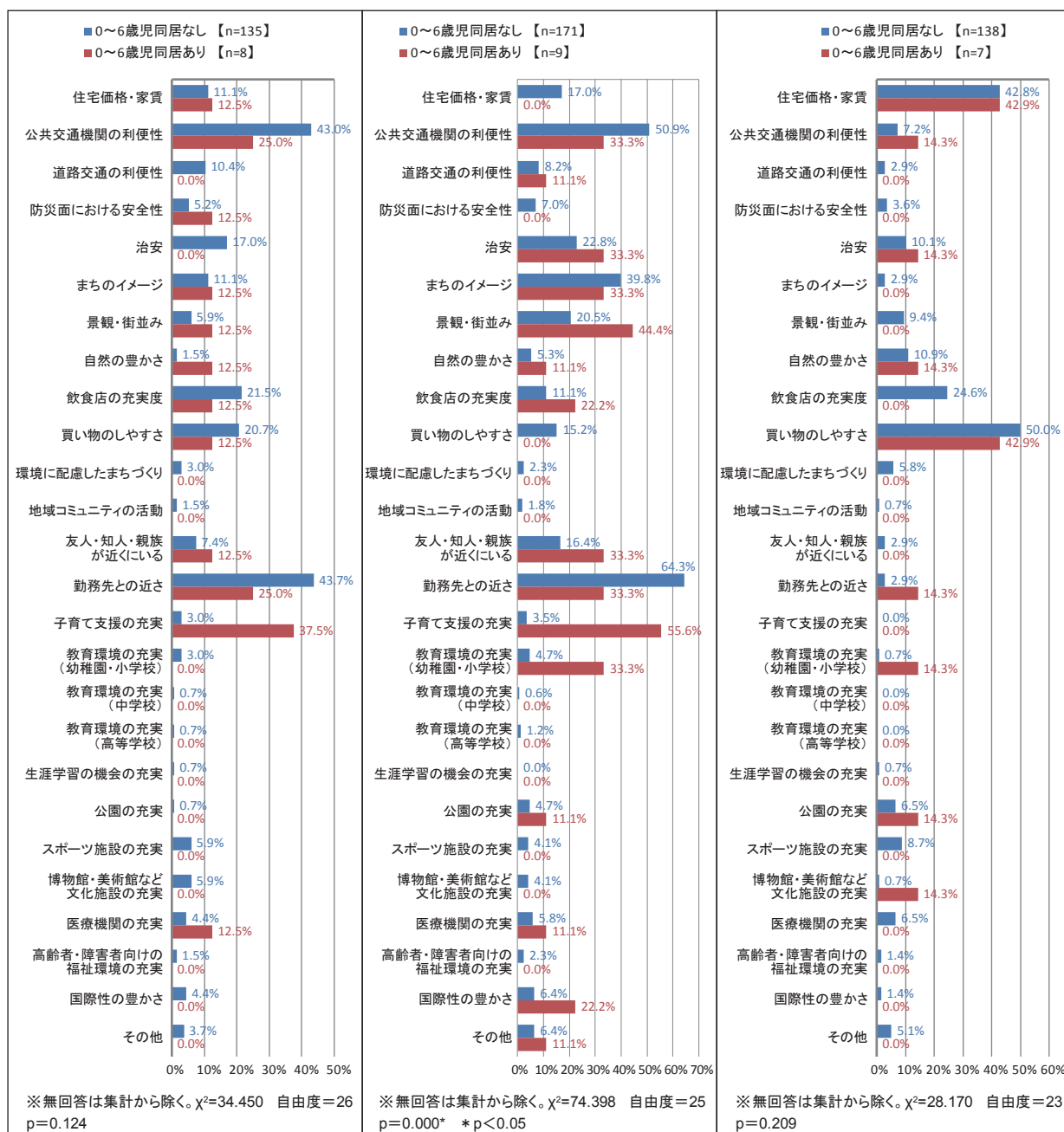
引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））に統計的な有意差はない。引越しの決め手（問9（2））において、「0～6歳児同居なし」は「勤務先との近さ」（64.3%）が最も多く、「公共交通機関の利便性」（50.9%）が次に多い。一方、「0～6歳児同居あり」は「子育て支援の充実」

(55.6%) を最も重視しており、「景観・街並み」(44.4%) を2番目に重視している(図表3-2-2-16)。

■特徴

「0～6歳児同居あり」は、「0～6歳児同居なし」と比較すると「子育て支援の充実」、「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」などをより重視している。

図表3-2-2-16 引越し後の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満
引越し前の不満(問9(1)) 引越しの決め手(問9(2)) 引越し後の不満(問9(3))



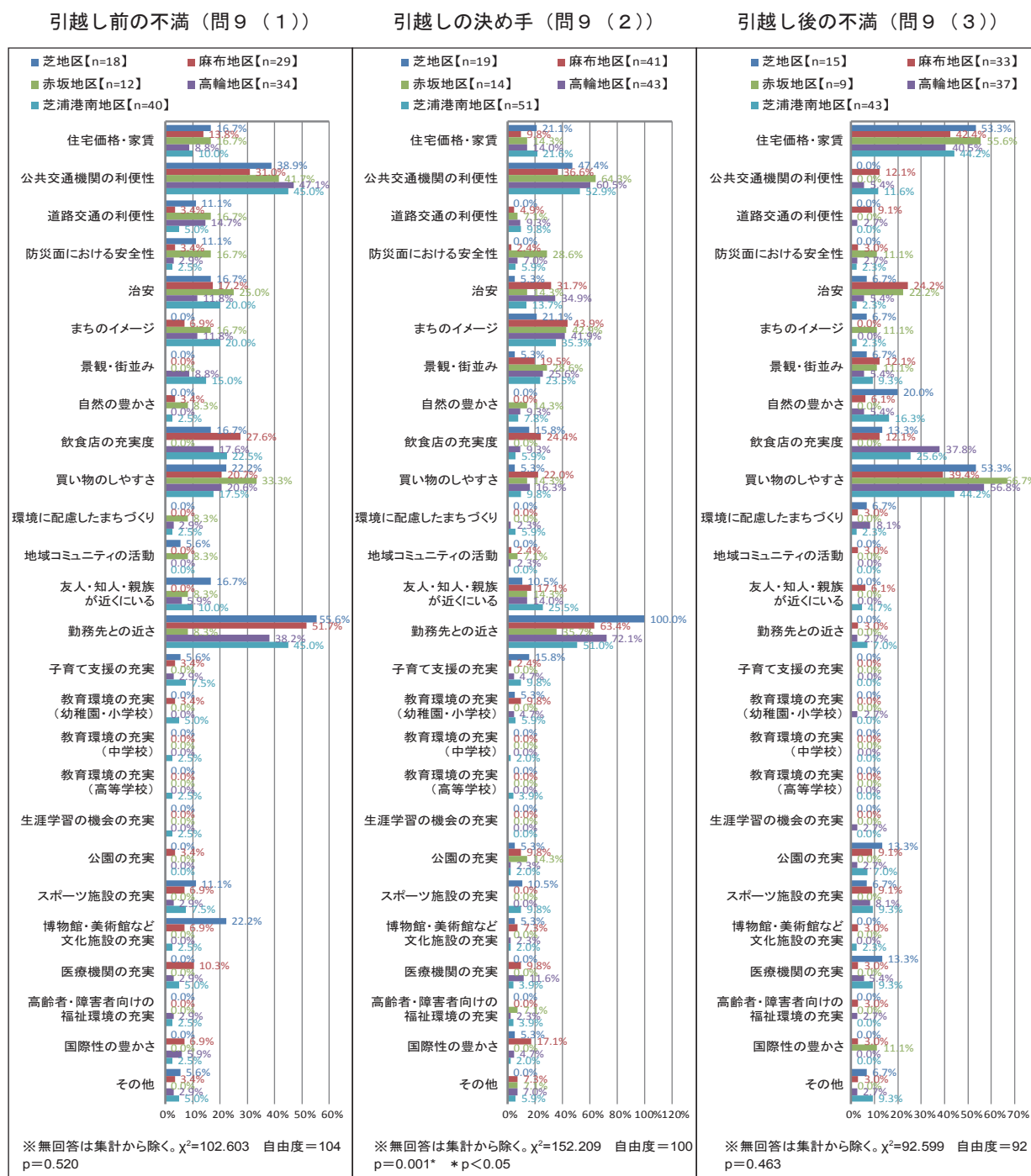
(ク) 引越し後の住所別引越しの決め手・引越し前後の不満

「麻布地区」と「高輪地区」は「治安」をきっかけとして選んでいる人の割合が高い。

■調査結果

引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））に統計的な有意差はない。引越しの決

図表3-2-2-17 引越し後の住所別引越しの決め手・引越し前後の不満



め手（問9（2））について、「勤務先との近さ」を最も重視しているのは「芝地区」（100.0%）で、次いで「高輪地区」（72.1%）、「麻布地区」（63.4%）だった。また、「公共交通機関の利便性」を最も重視しているのは「赤坂地区」（64.3%）で、次いで「高輪地区」（60.5%）、「芝浦港南地区」（52.9%）だった（図表3-2-2-17）。

■特徴

引越しの決め手（問9（2））において、「麻布地区」と「高輪地区」は「治安」をきつかけとして選んでいる人の割合がそれぞれ31.7%と34.9%で他地区と比較して高い。

ウ 転居

（ア）引越しの決め手・引越し前後の不満の全体傾向

転居

通勤環境や住居費が転居の際の最重要項目であり、これらは転居により不満の割合低下がみられるが、「買い物のしやすさ」をはじめとするその他周辺環境は重視されつつも不満の解消に至らないものが多い。

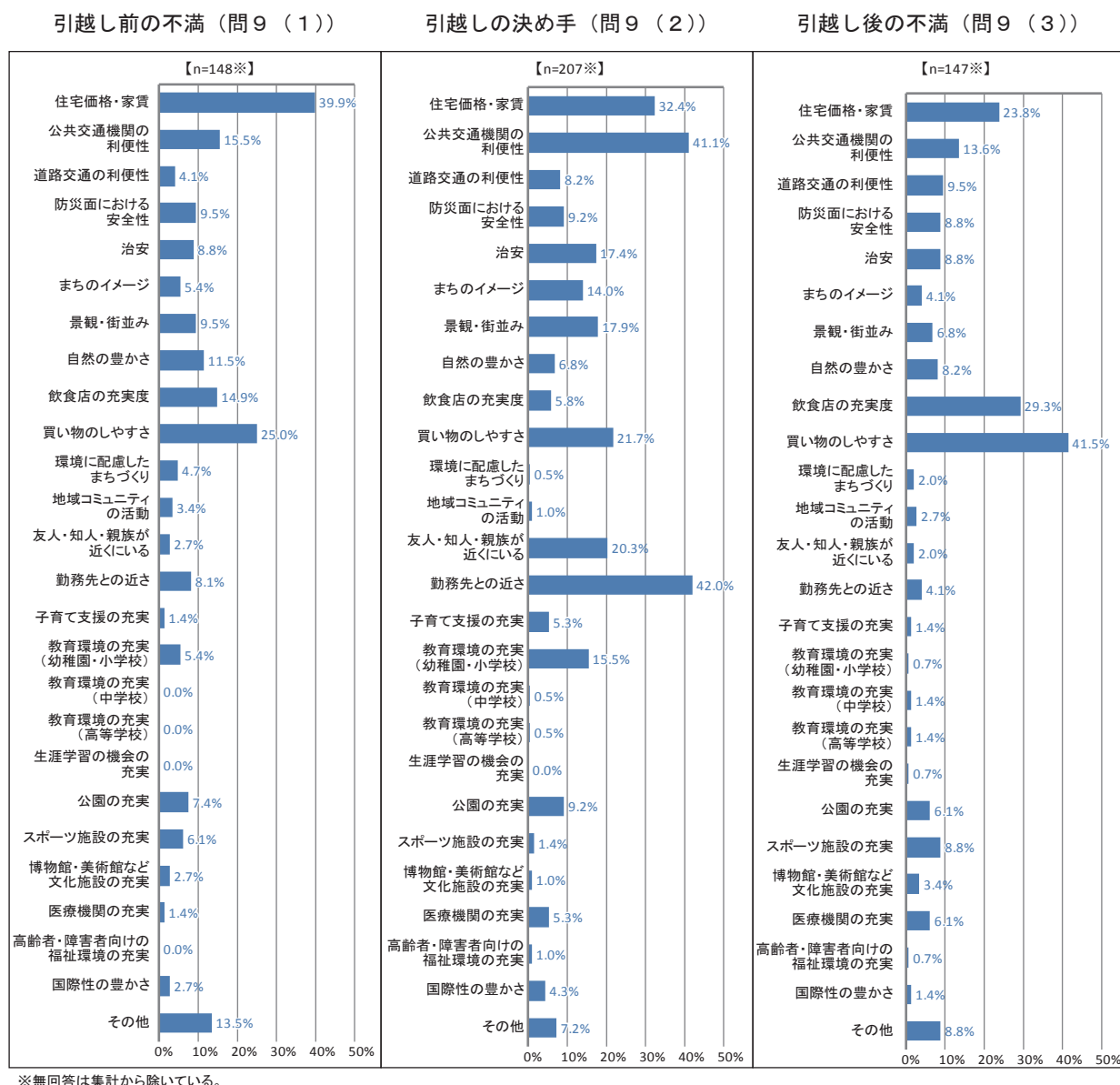
■調査結果

引越し前の不満（問9（1））では「住宅価格・家賃」（39.9%）が最も多く、「買い物のしやすさ」（25.0%）が2番目に多い。引越しの決め手（問9（2））では「勤務先との近さ」（42.0%）が最も多く、「公共交通機関の利便性」（41.1%）が2番目に多い。引越し後の不満（問9（3））では「買い物のしやすさ」（41.5%）が最も多く、「飲食店の充実度」（29.3%）が2番目に多い（図表3-2-2-18）。

■特徴

引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））を比較すると「買い物のしやすさ」に対する不満が16.5ポイント増となっている。引越しの決め手（問9（2））の結果から「買い物のしやすさ」を判断材料にしている人が一定数いることがわかるが区内転居では「実際に住んでみたら想定と違った」というような認識のギャップが起こるとは考えづらい。転居先を決める際、「買い物のしやすさ」は考慮に入れはするが、「住宅価格・家賃」や「公共交通機関の利便性」、「勤務先との近さ」など、より重要な項目を優先した結果、引越し後も不満が解消しない状況が生まれている可能性がある。

図表3-2-2-18 引越しの決め手・引越し前後の不満の全体傾向



転居

（イ）年齢別引越しの決め手・引越し前後の不満

港区の住居費や買い物のしやすさに関する不満は全年齢通じて高く、若い世代のほうが通勤環境をより重視している。

■調査結果

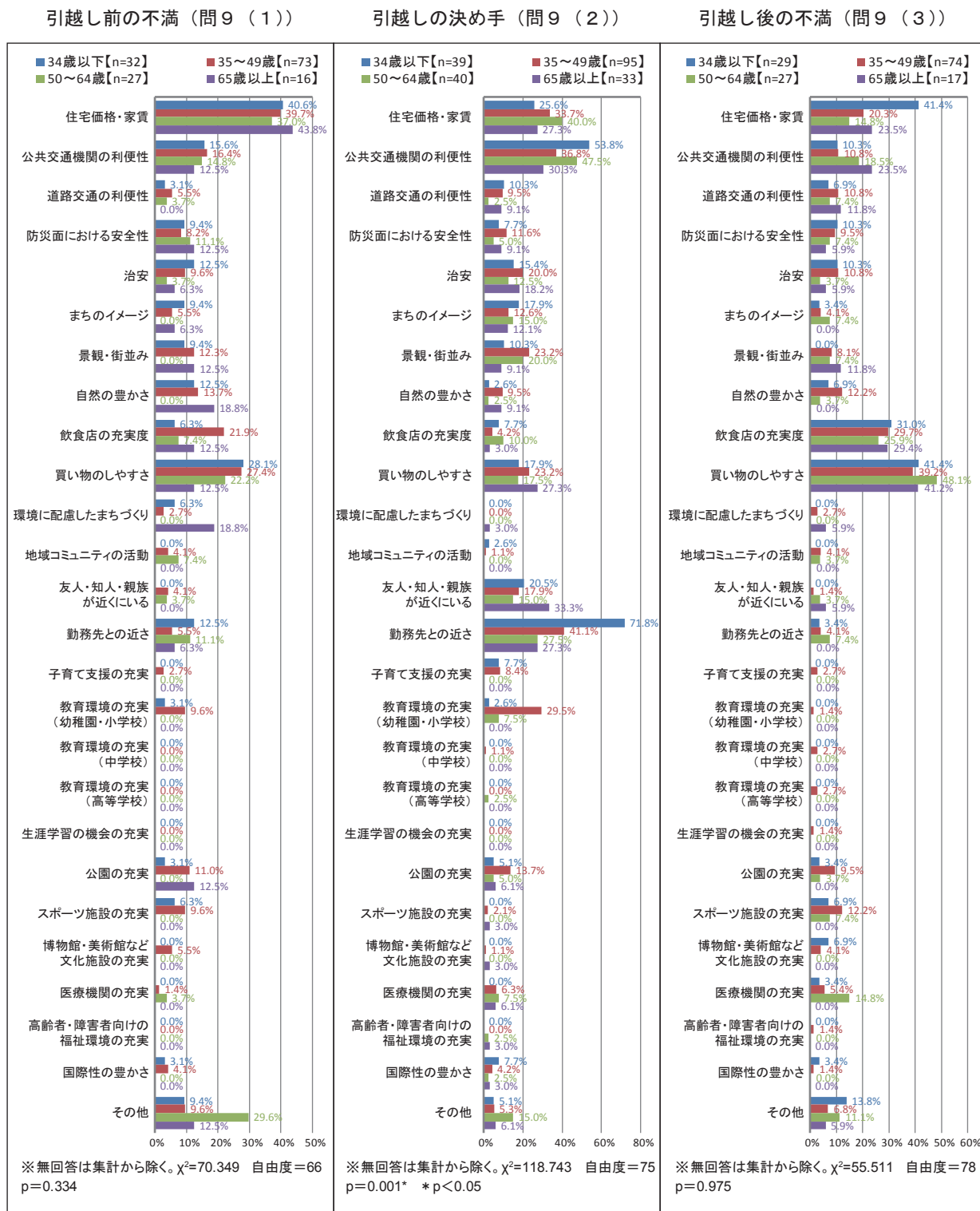
引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））に統計的な有意差はない。引越しの決め手（問9（2））について、「34歳以下」は「勤務先との近さ」（71.8%）が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」（53.8%）が多い。「35～49歳」は「勤務先との近さ」（41.1%）が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」（36.8%）が多い。「50～64歳」では「公共交通機関の利便性」（47.5%）が最も多く、次いで「住宅価格・家賃」（40.0%）が多い。「65歳以上」では「友人・知人・親族が近くにいる」（33.3%）が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」（30.3%）、「住宅価格・家賃」（27.3%）、

「買い物のしやすさ」(27.3%)、「勤務先との近さ」(27.3%)などが多くなっている(図表3-2-2-19)。

■特徴

「住宅価格・家賃」や「買い物のしやすさ」について不満やきっかけに選ぶ割合は年齢間に大きな差は無い。若い年齢層の方が「勤務先との近さ」をより重視する傾向にある。

図表3-2-2-19 年齢別引越しの決め手・引越し前後の不満



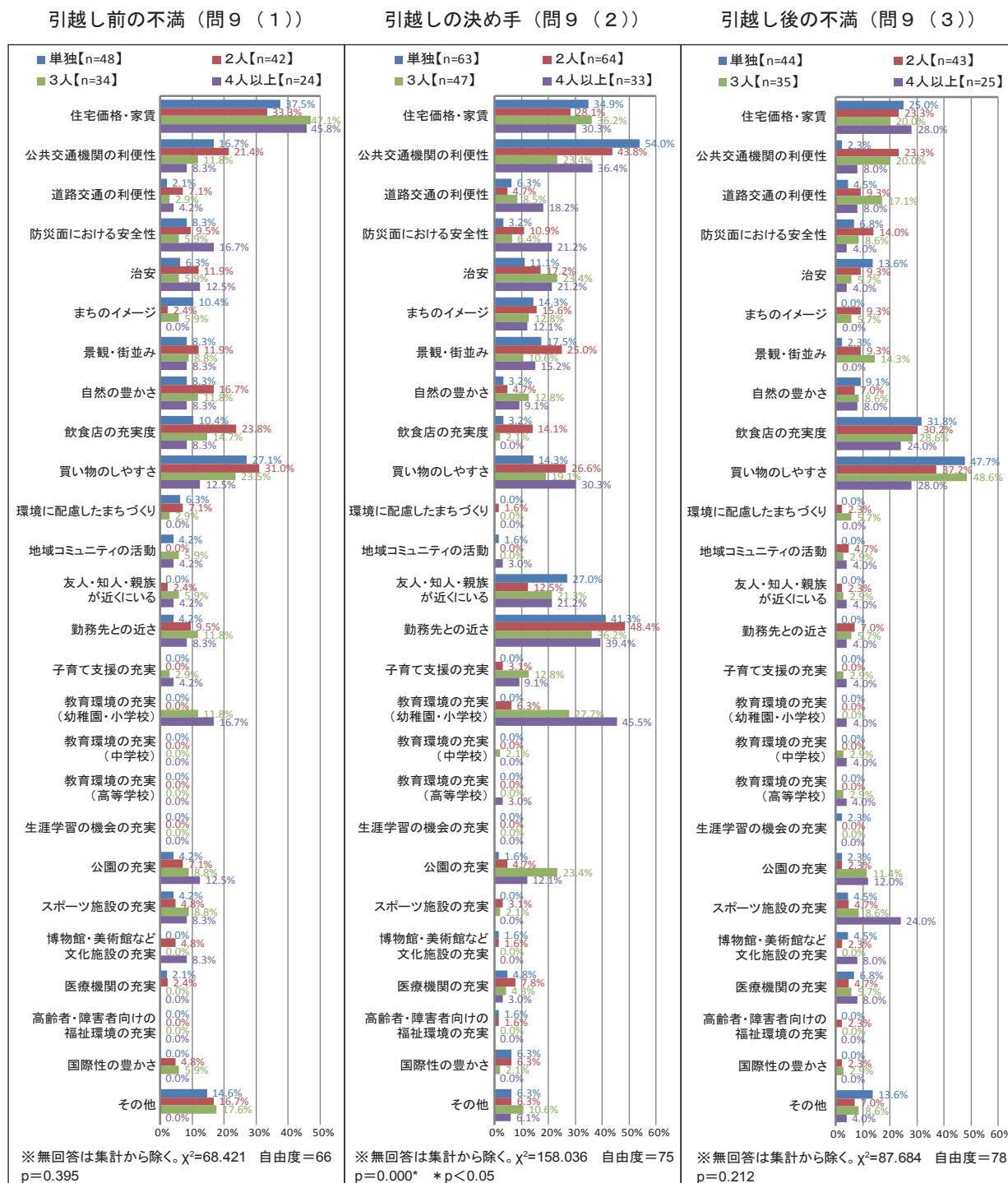
(ウ) 引越し前の世帯の人数別引越しの決め手・引越し前後の不満

世帯の人数が多いほど子育て環境をより重視する傾向がある。

■調査結果

引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））に統計的な有意差はない。引越しの

図表3-2-2-20 引越し前の世帯の人数別引越しの決め手・引越し前後の不満



決め手（問9（2））について「単独」の上位は「公共交通機関の利便性」（54.0％）と「勤務先との近さ」（41.3％）であった。「2人」の上位は「勤務先との近さ」（48.4％）と「公共交通機関の利便性」（43.8％）であった。「3人」の上位は「住宅価格・家賃」（36.2％）と「勤務先との近さ」（36.2％）であった。「4人以上」の上位は「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」（45.5％）と「勤務先との近さ」（39.4％）であった（図表3-2-2-20）。

■特徴

「3人」又は「4人以上」においては、世帯に子どもがいる可能性が高いため、「子育て支援の充実」や「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」、「公園の充実」などが「単独」、「2人」に比べて多い。

（エ）引越し前の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

転居

「配偶者同居あり」世帯のほうが子育て環境をより重視している。

■調査結果

引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））に統計的な有意差はない。引越しの決め手（問9（2））について、「配偶者同居なし」は「公共交通機関の利便性」（48.2％）が最も多く、次いで「勤務先との近さ」（39.8％）が多い。「配偶者同居あり」は「勤務先との近さ」（43.5％）が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」（36.3％）が多い（図表3-2-2-21）。

■特徴

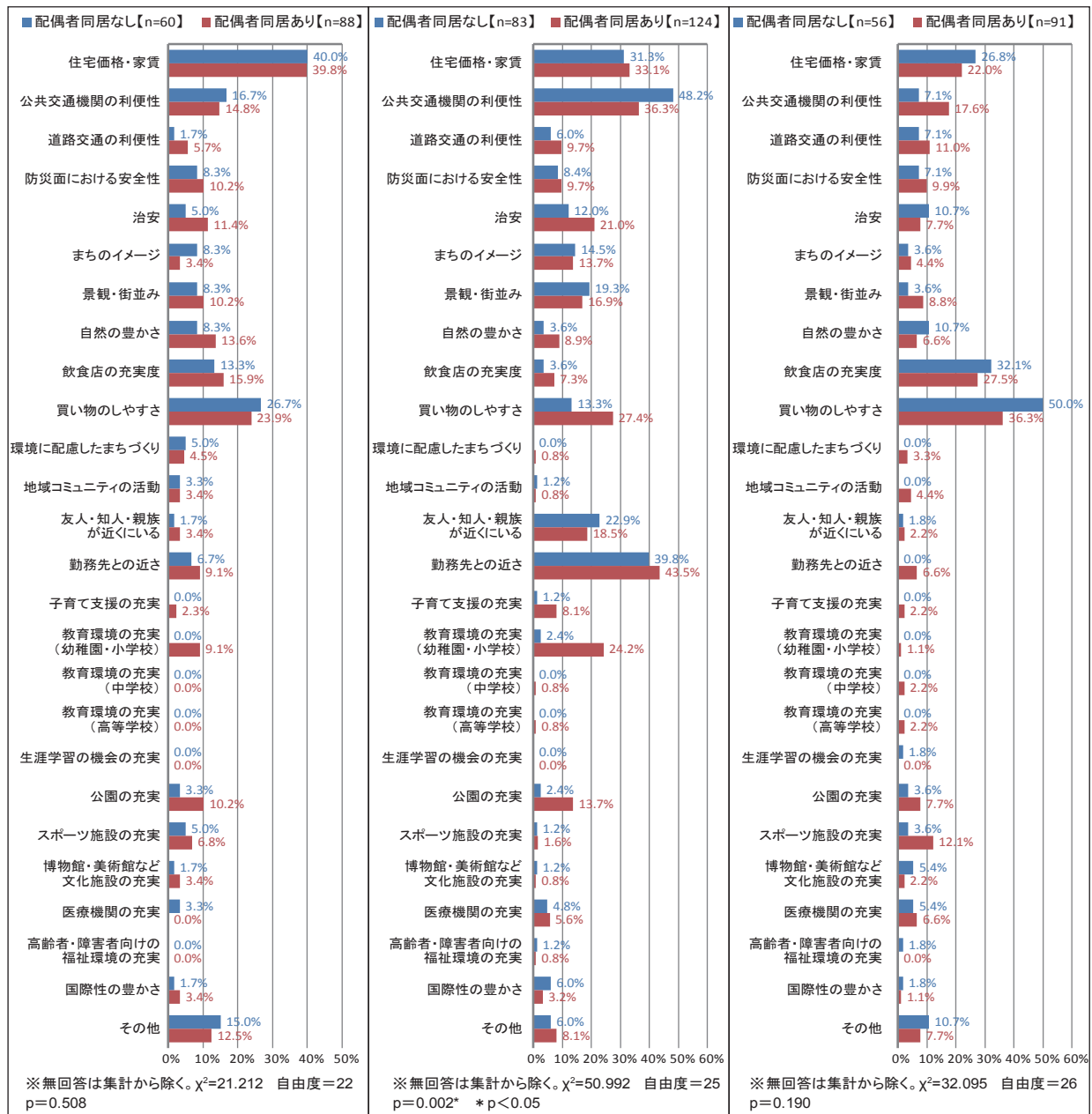
「配偶者同居あり」の方が「配偶者同居なし」と比べて、「治安」、「買い物のしやすさ」、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」、「公園の充実」などが多い。

図表3-2-2-21 引越し前の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

引越し前の不満（問9（1））

引越しの決め手（問9（2））

引越し後の不満（問9（3））



（オ）引越し後の世帯の人数別引越しの決め手・引越し前後の不満

転居

世帯の人数が多いほど子育て環境・教育環境をより重視している。

調査結果

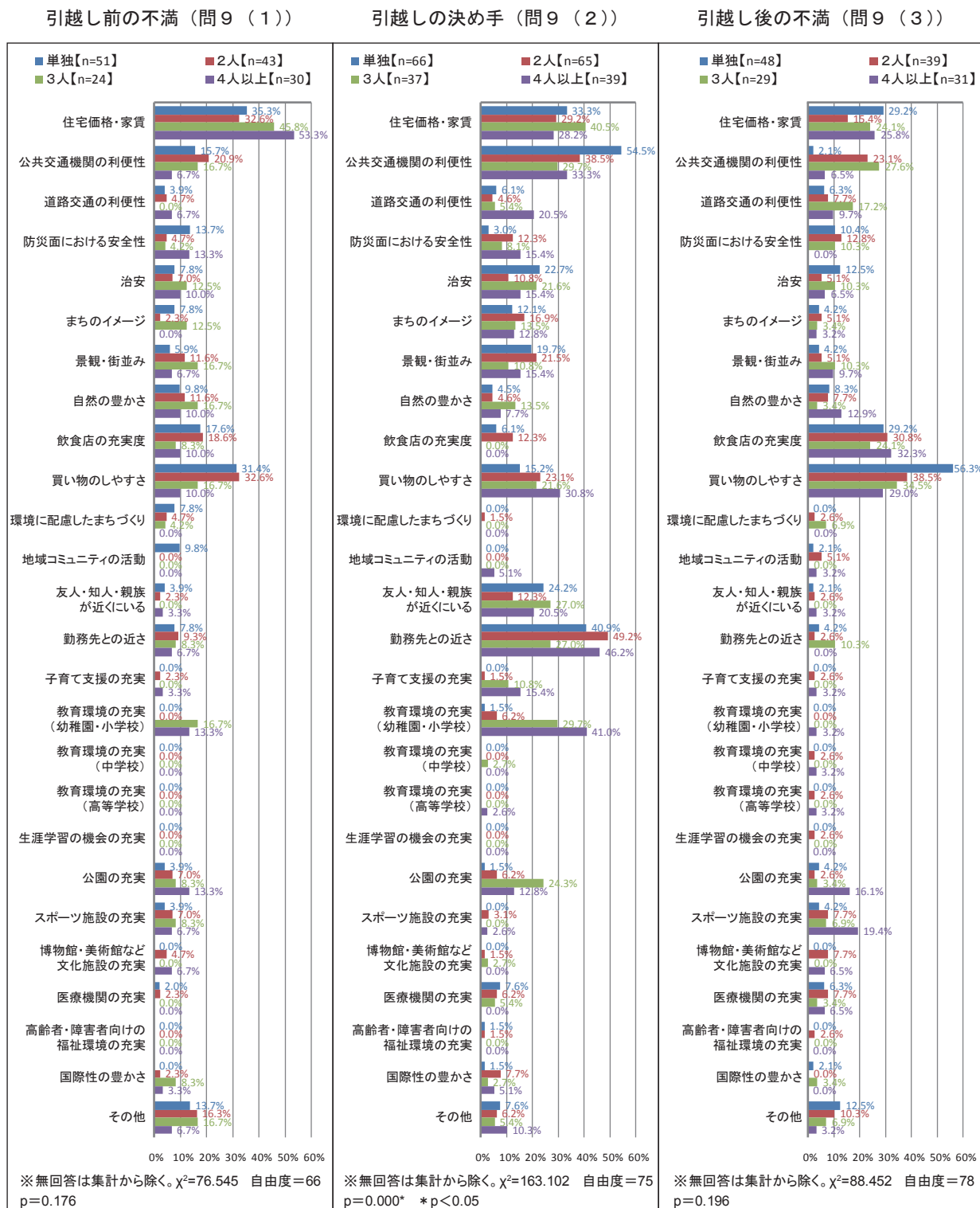
引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））に統計的な有意差はない。引越しの決め手（問9（2））について、「単独」の上位は「公共交通機関の利便性」（54.5%）、「勤務先との近さ」（40.9%）などであった。「2人」の上位は「勤務先との近さ」（49.2%）、「公共交通機関の利便性」（38.5%）などであった。「3人」の上位は「住宅価格・家賃」（40.5%）、「公共交通機関の利便性」

(29.7%)、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」(29.7%)であった。「4人以上」の上位は「勤務先との近さ」(46.2%)、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」(41.0%)であった（図表3-2-2-22）。

■特徴

「3人」又は「4人以上」においては、世帯に子どもがいる可能性が高いため、「子育て支援の充実」

図表3-2-2-22 引越し後の世帯の人数別引越しの決め手・引越し前後の不満



や「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」、「公園の充実」などが「単独」、「2人」に比べて多い。

転居

（カ）引越し後の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

「配偶者同居あり」世帯ほど子育て環境・教育環境をより重視している。

■調査結果

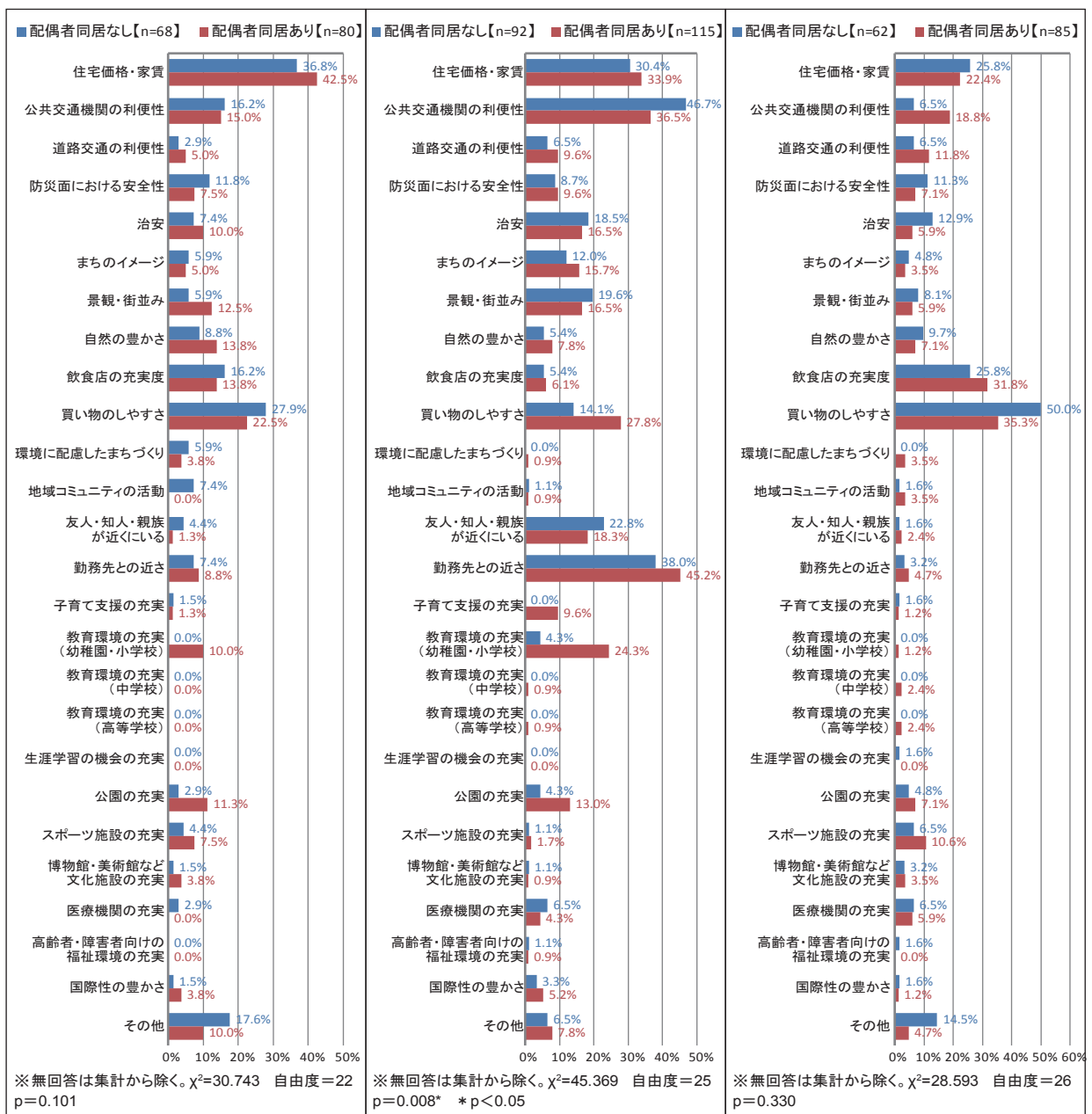
引越し前の不満（問9（1））と引越し後の不満（問9（3））は統計的な有意差はない。引越しの決め手（問9（2））について、「配偶者同居なし」は「公共交通機関の利便性」（46.7%）が最も多く、

図表3-2-2-23 引越し後の配偶者同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

引越し前の不満（問9（1））

引越しの決め手（問9（2））

引越し後の不満（問9（3））



次いで「勤務先との近さ」(38.0%)が多い。「配偶者同居あり」は「勤務先との近さ」(45.2%)が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」(36.5%)が多い(図表3-2-2-23)。

■特徴

「配偶者同居あり」の方が「配偶者同居なし」と比べて、「買い物のしやすさ」、「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」などが多い。

(キ) 引越し後の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

転居

「0～6歳児同居あり」世帯ほど子育て環境・教育環境をより重視している。

■調査結果

引越し前の不満(問9(1))と引越し後の不満(問9(3))に統計的な有意差はない。引越しの決め手(問9(2))について、「0～6歳児同居なし」では「公共交通機関の利便性」(43.9%)が最も多く、「勤務先との近さ」(41.6%)が次いで多い。「0～6歳児同居あり」では「勤務先との近さ」(44.1%)が最も多く、「買い物のしやすさ」と「住宅価格・家賃」が共に29.4%で2番目に多い(図表3-2-2-24)。

■特徴

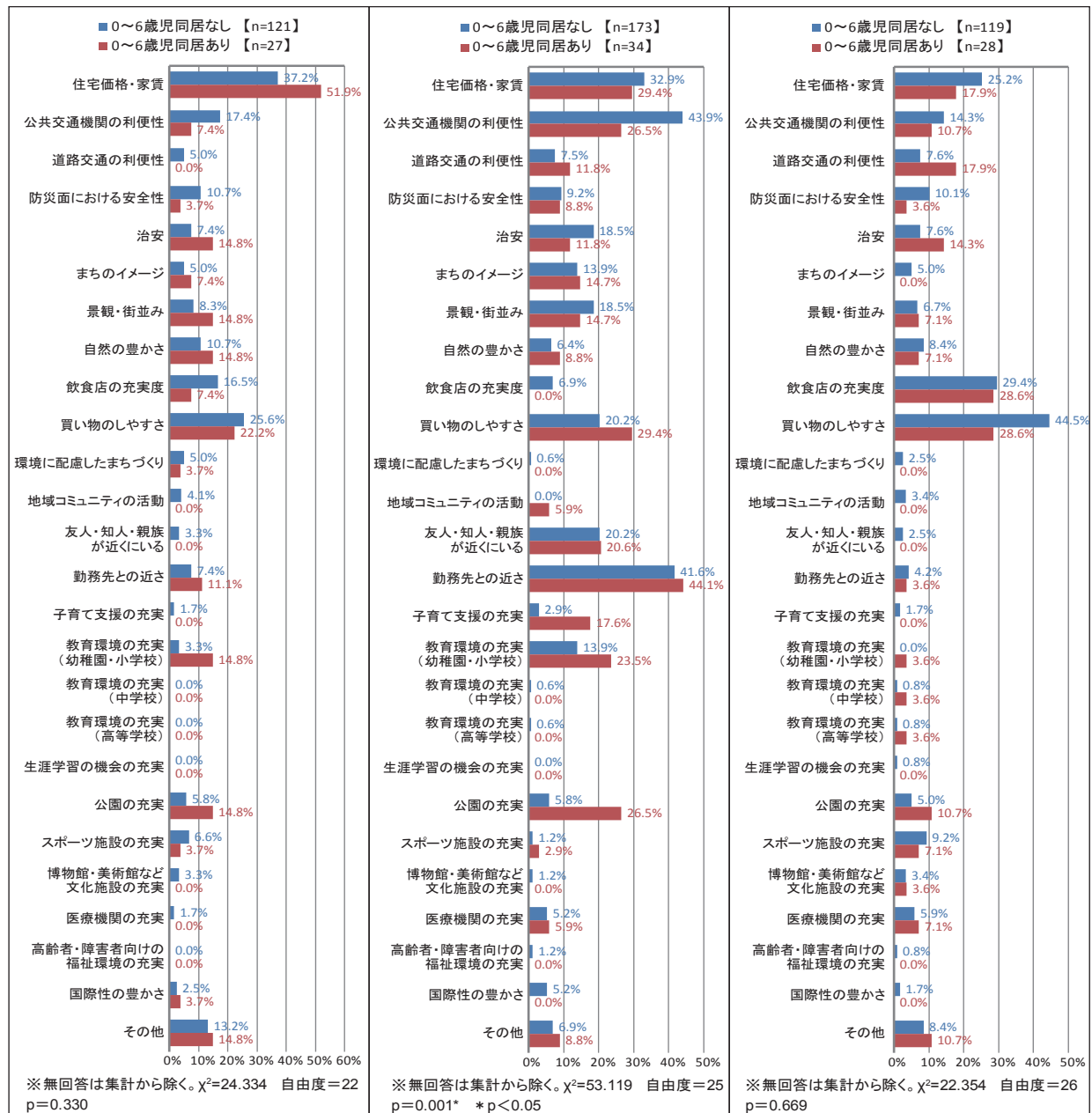
「0～6歳児同居あり」の方が、「買い物のしやすさ」、「子育て支援の充実」、「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」などの環境要因を重視する割合が高い。

図表3-2-2-24 引越し後の0～6歳児同居の有無別引越しの決め手・引越し前後の不満

引越し前の不満（問9（1））

引越しの決め手（問9（2））

引越し後の不満（問9（3））



（ク）引越し後の住所別引越しの決め手・引越し前後の不満

転居

「買い物のしやすさ」の不満は「赤坂地区」、「治安」の不満は「麻布地区」が他地区と比べて高い。

■調査結果

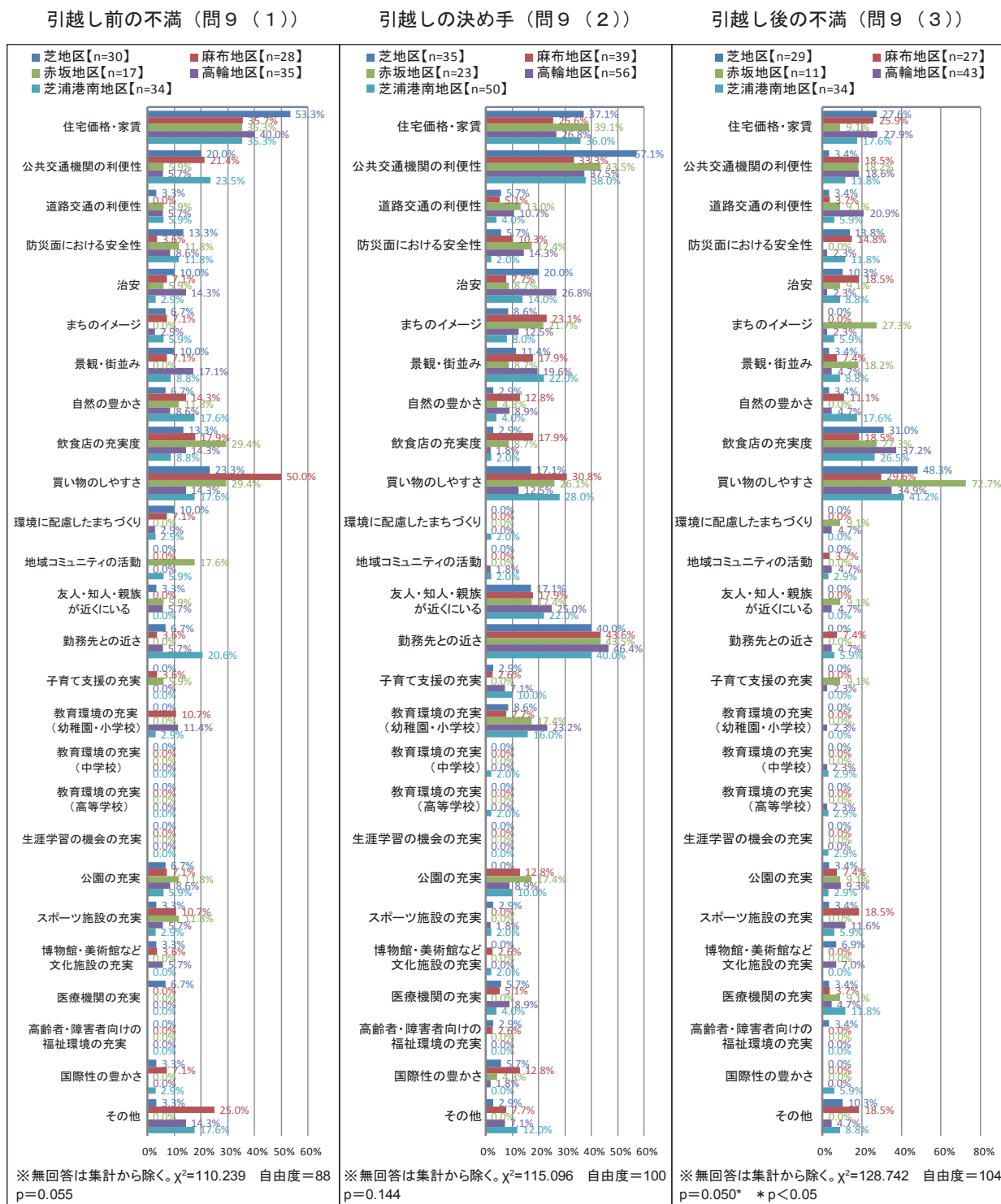
引越し前の不満（問9（1））と引越しの決め手（問9（2））に統計的な有意差はない。引越し後の不満（問9（3））については「高輪地区」を除く4つの地区において「買い物のしやすさ」が最も多い不満点だった。なお、「高輪地区」でも2番目に高い回答率である。各地区の割合はそ

れぞれ、「芝地区」(48.3%)、「麻布地区」(29.6%)、「赤坂地区」(72.7%)、「高輪地区」(34.9%)、「芝浦港南地区」(41.2%)であった(図表3-2-2-25)。

■特徴

「買い物のしやすさ」の不満は全体的に高いが、「赤坂地区」は特に不満に思う人の割合が高い。「治安」を不満に思う人の割合について、「麻布地区」は他地区と比べて高い。

図表3-2-2-25 引越し後の住所別引越しの決め手・引越し前後の不満



3 ふだん重要視している点（問9（4））

問9 （1）～（4）の4つの質問に対し、それぞれあてはまるものを以下の選択肢から選んで、番号でお答えください。（最大5つまで・順不同でも可）

（1）引越し前のお住まいの地域で不満だった点・・・					
（2）引越し先を選んだ際決め手になった点・・・					
（3）実際に引越した後不満に感じている点・・・					
（4）あなたがふだん重要視している点・・・					

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 住宅価格・家賃 | 14. 勤務先との近さ |
| 2. 公共交通機関の利便性 | 15. 子育て支援の充実 |
| 3. 道路交通の利便性 | 16. 教育環境の充実（幼稚園・小学校） |
| 4. 防災面における安全性 | 17. 教育環境の充実（中学校） |
| 5. 治安 | 18. 教育環境の充実（高等学校） |
| 6. まちのイメージ | 19. 生涯学習の機会の充実 |
| 7. 景観・街並み | 20. 公園の充実 |
| 8. 自然の豊かさ | 21. スポーツ施設の充実 |
| 9. 飲食店の充実度 | 22. 博物館・美術館など文化施設の充実 |
| 10. 買い物のしやすさ | 23. 医療機関の充実 |
| 11. 環境に配慮したまちづくり | 24. 高齢者・障害者向けの福祉環境の充実 |
| 12. 地域コミュニティの活動 | 25. 国際性の豊かさ |
| 13. 友人・知人・親族が近くにいる | 26. その他（ ） |

（1）基本集計結果

転出

転入

転居

合計

「転出」、「転入」、「転居」全て第1位は「公共交通機関の利便性」となっている。

■調査結果

「転出」については、第1位は「公共交通機関の利便性」で44.7%、第2位は「治安」で41.2%、第3位は「買い物のしやすさ」で40.7%、第4位は「住宅価格・家賃」で37.2%、第5位は「勤務先との近さ」で36.7%であった（図表3-3-1-1～3）。

「転入」については、第1位は「公共交通機関の利便性」で49.4%、第2位は「買い物のしやすさ」で42.5%、第3位は「勤務先との近さ」で41.9%、第4位は「治安」で36.9%、第5位は「住宅価格・家賃」で32.5%であった。

「転居」については、第1位は「公共交通機関の利便性」で52.2%、第2位は「治安」で40.5%、第3位は「住宅価格・家賃」で36.1%、第4位は「勤務先との近さ」で34.6%、第5位は「買い物のしやすさ」で33.7%であった（図表3-3-1-1～3）。

■特徴

「転出」、「転入」、「転居」全て、第1位は「公共交通機関の利便性」となっており5割前後を占めている。

図表3-3-1-1 「転出」におけるふだん重要視している点（上位5位）

順位	ふだん重要視している点	割合
1	公共交通機関の利便性	44.7%
2	治安	41.2%
3	買い物のしやすさ	40.7%
4	住宅価格・家賃	37.2%
5	勤務先との近さ	36.7%

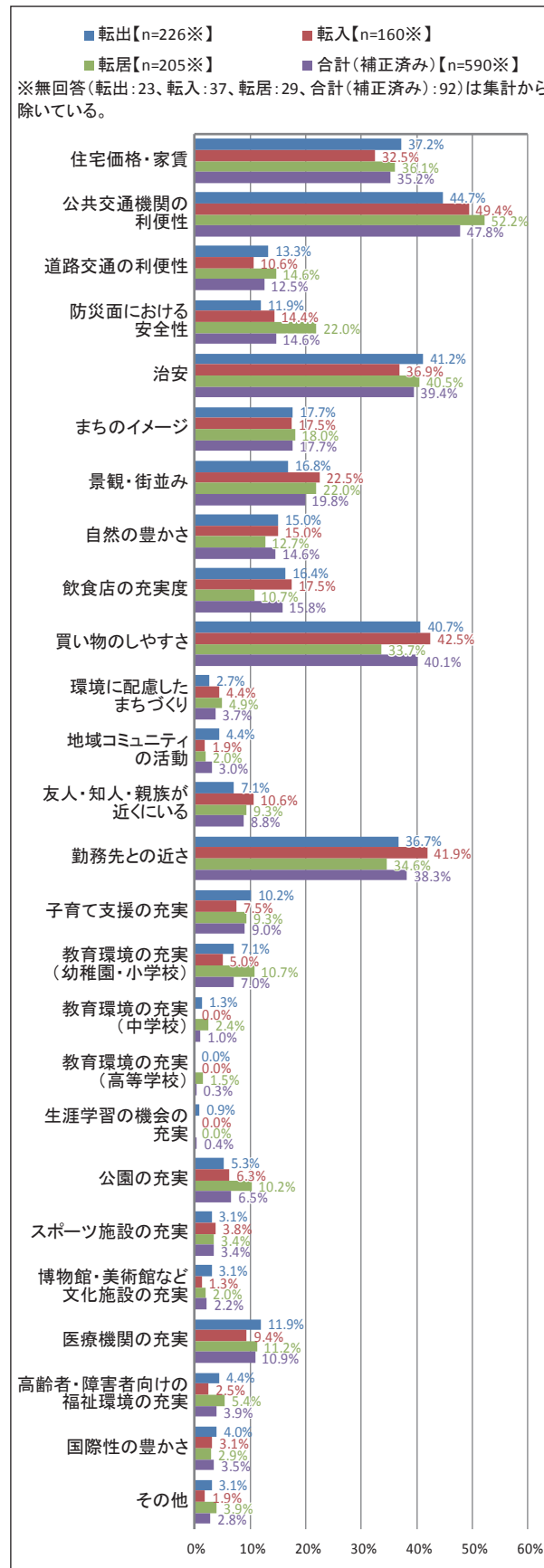
図表3-3-1-2 「転入」におけるふだん重要視している点（上位5位）

順位	ふだん重要視している点	割合
1	公共交通機関の利便性	49.4%
2	買い物のしやすさ	42.5%
3	勤務先との近さ	41.9%
4	治安	36.9%
5	住宅価格・家賃	32.5%

図表3-3-1-3 「転居」におけるふだん重要視している点（上位5位）

順位	ふだん重要視している点	割合
1	公共交通機関の利便性	52.2%
2	治安	40.5%
3	住宅価格・家賃	36.1%
4	勤務先との近さ	34.6%
5	買い物のしやすさ	33.7%

図表3-3-1-4 「転出・転入・転居」におけるふだん重要視している点（全項目）（問9）



(2) クロス集計結果

ふだん重要視している点（問9（4））では、基本集計結果より、転出・転入・転居のすべてで同様の傾向がみられたため、ここでは異動事由を合算した「全体（補正済）」を使用する（前掲図表3-3-1-4）。

ア 年齢別ふだん重要視している点

合計

年齢層を問わず「公共交通機関の利便性」、「治安」、「買い物のしやすさ」は、重要視されている。

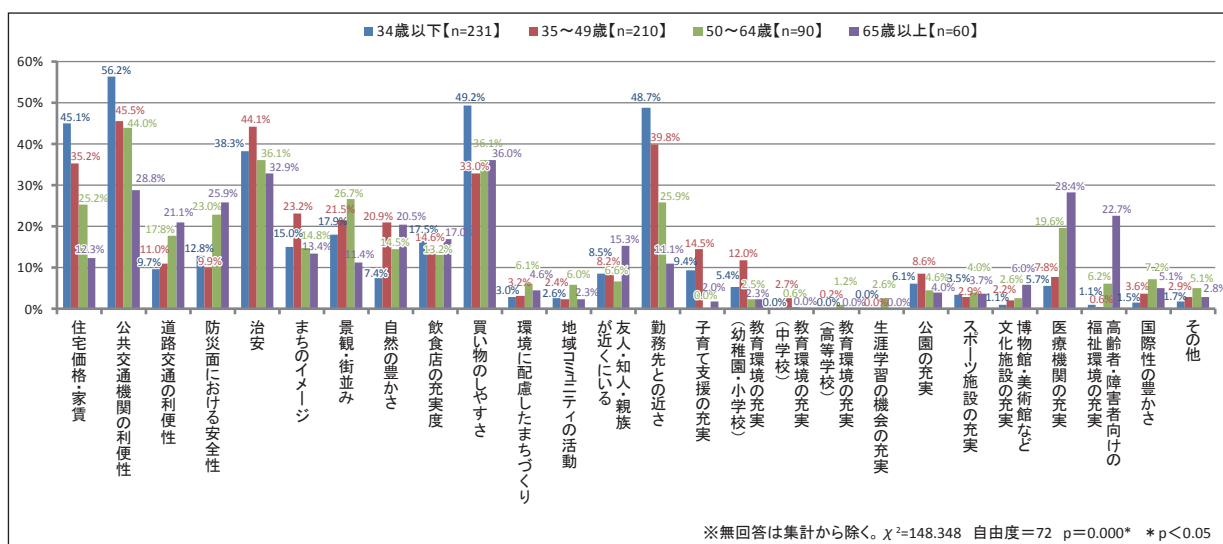
■調査結果

「34歳以下」は、「公共交通機関の利便性」（56.2%）が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」（49.2%）、「勤務先との近さ」（48.7%）などが多くなっている。「35～49歳」は、「公共交通機関の利便性」（45.5%）が最も多く、次いで「治安」（44.1%）、「勤務先との近さ」（39.8%）などが多くなっている。「50～64歳」では、「公共交通機関の利便性」（44.0%）が最も多く、「治安」（36.1%）、「買い物のしやすさ」（36.0%）が同率2位である。「65歳以上」は、「買い物のしやすさ」（36.0%）が最も多く、次いで「治安」（32.9%）、「公共交通機関の利便性」（28.8%）などが多くなっている（図表3-3-2-1）。

■特徴

「住宅価格・家賃」、「公共交通機関の利便性」、「勤務先との近さ」では、年齢が低いほど回答割合が高い傾向がある。一方で、「道路交通の利便性」、「防災面における安全性」、「医療機関の充実」、「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」では、年齢が高いほど、おおむね回答割合が高い傾向がある。「公共交通機関の利便性」、「治安」、「買い物のしやすさ」では、割合の大小はあるものの、全ての年齢層において、2割5分を超えており、年齢を問わず重要視されている。

図表3-3-2-1 年齢別ふだん重要視している点



イ 性別ふだん重要視している点

合計

「女性」の方が「男性」より、「買い物のしやすさ」、「治安」、「公共交通機関の利便性」の割合が高い。

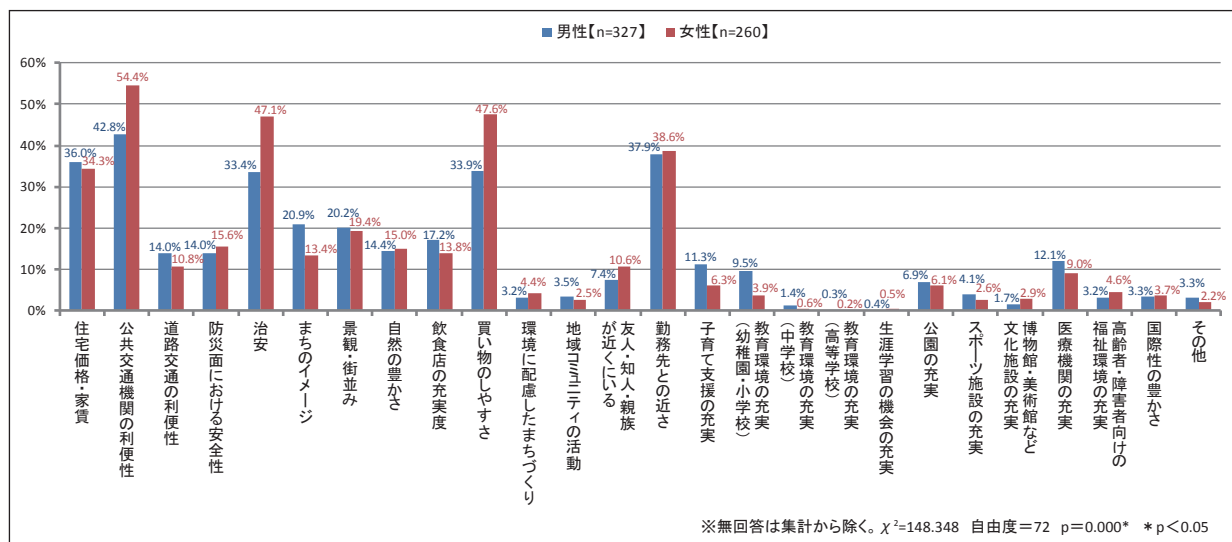
■調査結果

「男性」は、「公共交通機関の利便性」(42.8%)が最も多く、次いで「勤務先との近さ」(37.9%)、「住宅価格・家賃」(36.0%)などが多くなっている。「女性」は、「公共交通機関の利便性」(54.4%)が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」(47.6%)、「治安」(47.1%)などが多くなっている(図表3-3-2-2)。

■特徴

「住宅価格・家賃」、「公共交通機関の利便性」、「治安」、「買い物のしやすさ」、「勤務先との近さ」は、男女ともに3割を超えており、性別に問わず重要視している項目であることが分かる。また、「買い物のしやすさ」、「治安」、「公共交通機関の利便性」では、「女性」の方が「男性」より、それぞれ13.7、13.6、11.6ポイント高く、男女の差が強く出ている。

図表3-3-2-2 性別ふだん重要視している点



ウ 職業別ふだん重要視している点

合計

「会社員・団体職員・公務員」は「勤務先との近さ」、「公共交通機関の利便性」、「住宅価格・家賃」の回答割合がおおむね高い。

■調査結果

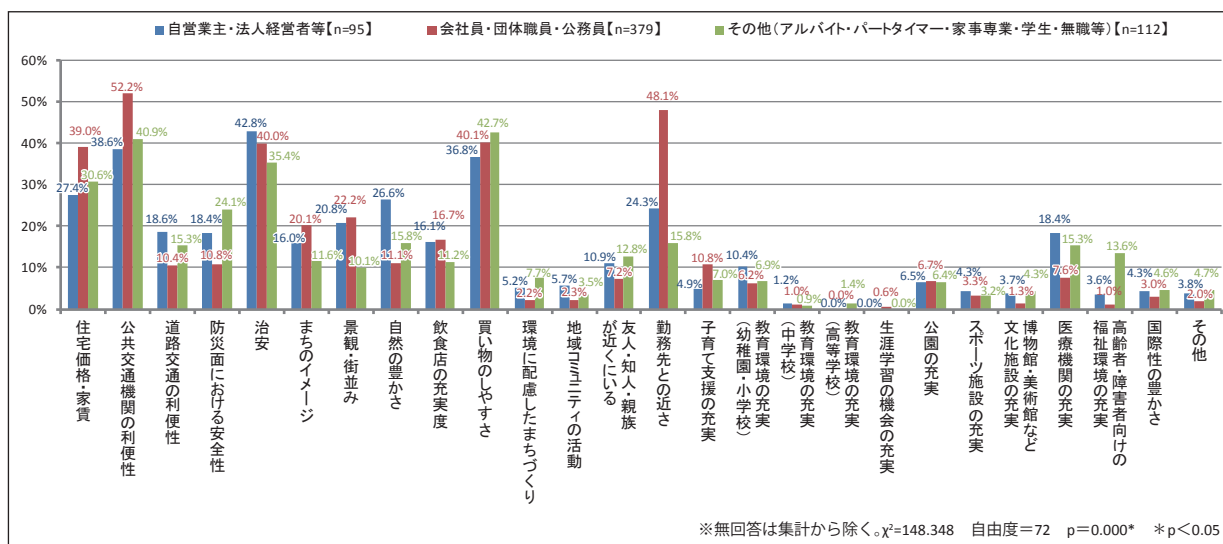
「自営業主・法人経営者等」は、「治安」(42.8%)が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」(38.6%)、「買い物のしやすさ」(36.8%)などが多くなっている。「会社員・団体職員・公務員」は、「公共交通機関の利便性」(52.2%)が最も多く、次いで「勤務先との近さ」(48.1%)、「買い物のしやすさ」(40.1%)などが多くなっている。「その他(アルバイト・パートタイマー・家事専業・学生・無職等)」では、「買い物のしやすさ」(42.7%)が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」(40.9%)、

「治安」(35.4%)などが多くなっている(図表3-3-2-3)。

■特徴

「住宅価格・家賃」、「公共交通機関の利便性」、「勤務先との近さ」では、「会社員・団体職員・公務員」の回答割合が高い。一方で、「道路交通の利便性」、「防災面における安全性」、「自然の豊かさ」、「医療機関の充実」では、「自営業主・法人経営者等」、「その他(アルバイト・パートタイマー・家事専業・学生・無職等)」の回答割合が相対的に高い。

図表3-3-2-3 職業別ふだん重要視している点



エ 引越し前の世帯の人数別ふだん重要視している点

合計

引越し前の世帯の人数が多いほど「治安」、「自然の豊かさ」、「子育て支援の充実」、「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」、「医療機関の充実」の回答割合が高く、少ないほど「住宅価格・家賃」、「買い物のしやすさ」、「勤務先との近さ」の割合が高い傾向がある。

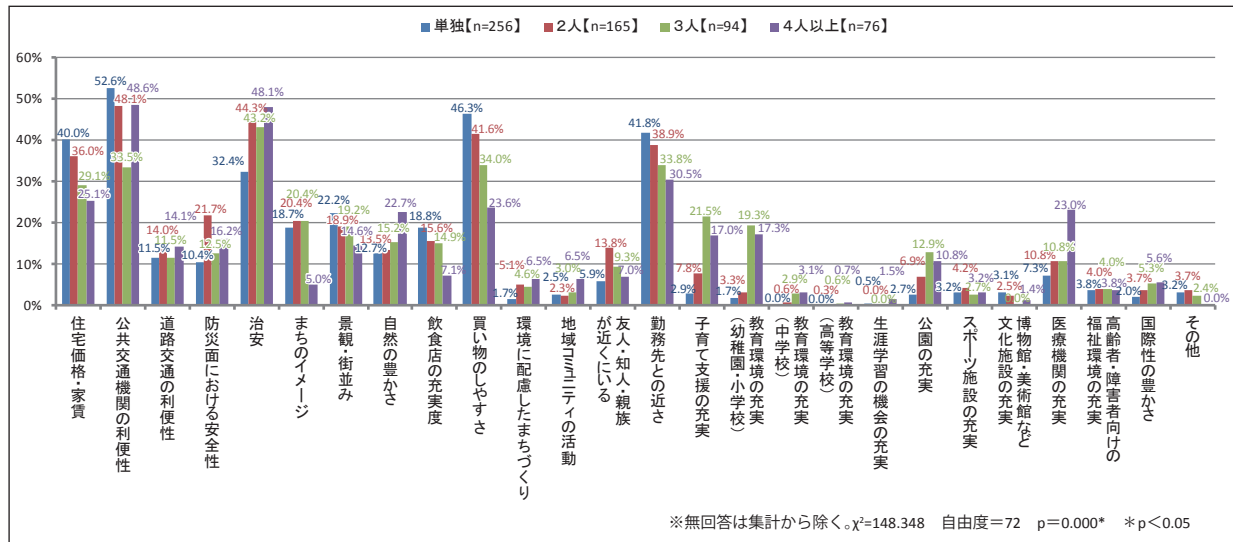
■調査結果

「単独」は、「公共交通機関の利便性」(52.6%)が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」(46.3%)、「勤務先との近さ」(41.8%)などが多くなっている。「2人」は、「公共交通機関の利便性」(48.1%)が最も多く、次いで「治安」(44.3%)、「買い物のしやすさ」(41.6%)などが多くなっている。「3人」は、「治安」(43.2%)が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」(34.0%)、「勤務先との近さ」(33.8%)などが多くなっている。「4人以上」は、「公共交通機関の利便性」(48.6%)が最も多く、次いで「治安」(48.1%)、「勤務先との近さ」(30.5%)などが多くなっている(図表3-3-2-4)。

■特徴

「治安」、「自然の豊かさ」、「子育て支援の充実」、「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」、「医療機関の充実」では、世帯の人数が多いほど回答割合がおおむね多い傾向がある。一方、「住宅価格・家賃」、「景観・街並み」、「飲食店の充実度」、「買い物のしやすさ」、「勤務先との近さ」では、世帯の人数が少ないほど回答割合がおおむね高い傾向がある。

図表3-3-2-4 引越し前の世帯の人数別だん重要視している点



才 引越し後の世帯の人数別ふだん重要視している点

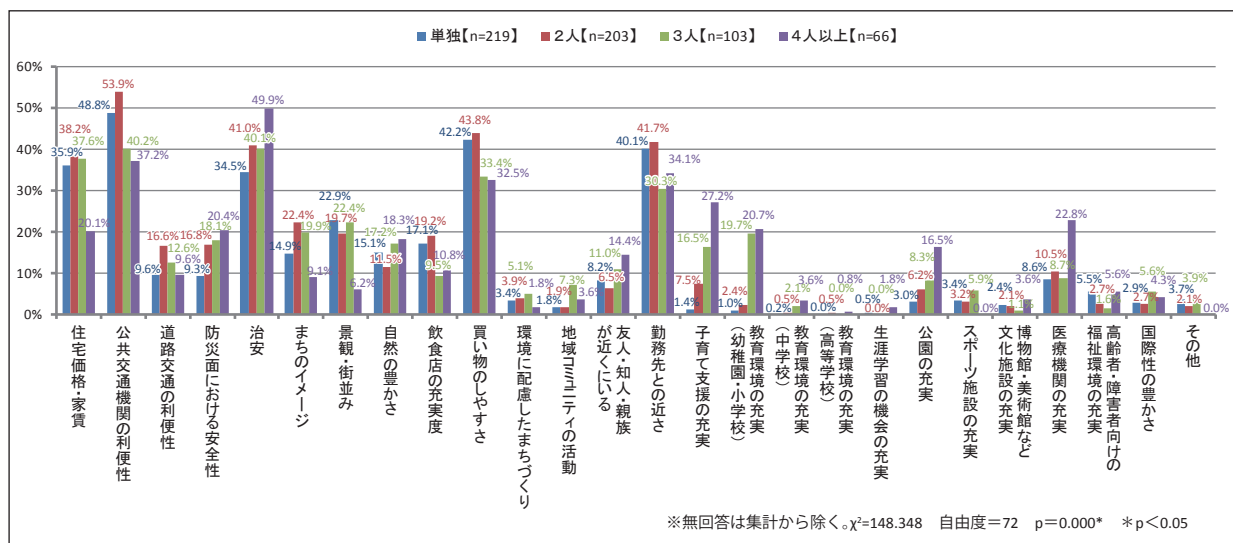
合計

引越し後の世帯の人数が多いほど「治安」、「防災面における安全性」、「友人・知人・親族が近くにいる」、「子育て支援の充実」、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」、「公園の充実」、「医療機関の充実」の回答割合が高い傾向がある。

■ 調査結果

「単独」は、「公共交通機関の利便性」(48.8%)が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」(42.2%)、「勤務先との近さ」(40.1%)などが多くなっている。「2人」は、「公共交通機関の利便性」(53.9%)が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」(43.8%)、「勤務先との近さ」(41.7%)などが多くなっている。「3人」は、「公共交通機関の利便性」(40.2%)が最も多く、次いで「治安」(40.1%)、「住宅価格・家賃」(37.6%)などが多くなっている。「4人以上」は、「治安」(49.9%)が最も多く、次いで「公共

図表3-3-2-5 引越し後の世帯の人数別ふだん重要視している点



交通機関の利便性」(37.2%)、「勤務先との近さ」(34.1%)などが多くなっている(図表3-3-2-5)。

■特徴

「治安」、「防災面における安全性」、「友人・知人・親族が近くにいる」、「子育て支援の充実」、「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「公園の充実」、「医療機関の充実」では、世帯の人数が多いほど回答割合がおおむね高い傾向がある。「公共交通機関の利便性」、「買い物のしやすさ」、「勤務先との近さ」は、どの世帯の人数でも3割を超えることが特徴的であるが、一方で「単独」、「2人」と「3人」、「4人以上」で比較すると、それぞれ「単独」、「2人」が他方を上回っていることが分かる。また、引越し前の世帯の人数が少ないほど割合が高かった点は、引越し後では見られず、引越し前後で世帯の人数が変化していることが影響していると考えられる。

カ 引越し前の配偶者同居の有無別だん重要視している点

合計

引越し前「配偶者同居あり」では「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「子育て支援の充実」が特に高い。

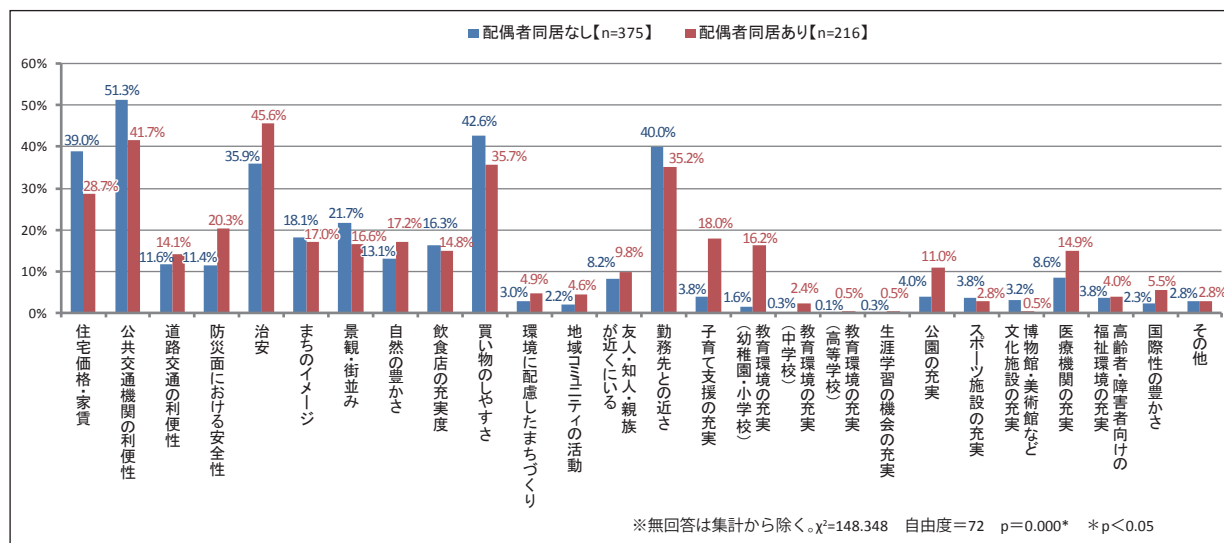
■調査結果

「配偶者同居あり」は、「治安」(45.6%)が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」(41.7%)、「買い物のしやすさ」(35.7%)などが多くなっている。「配偶者同居なし」は、「公共交通機関の利便性」(51.3%)が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」(42.6%)、「勤務先との近さ」(40.0%)などが多くなっている(図表3-3-2-6)。

■特徴

「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」、「子育て支援の充実」では、「配偶者同居あり」の方が「配偶者同居なし」より、それぞれ14.6、14.2ポイント高い。一方、「住宅価格・家賃」では、「配偶者同居なし」の方が「配偶者同居あり」より、10.3ポイント高く、特徴的である。

図表3-3-2-6 引越し前の配偶者同居の有無別だん重要視している点



キ 引越し後の配偶者同居の有無別ふだん重要視している点

合計

引越し後「配偶者同居あり」では「子育て支援の充実」、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」が特に高い。

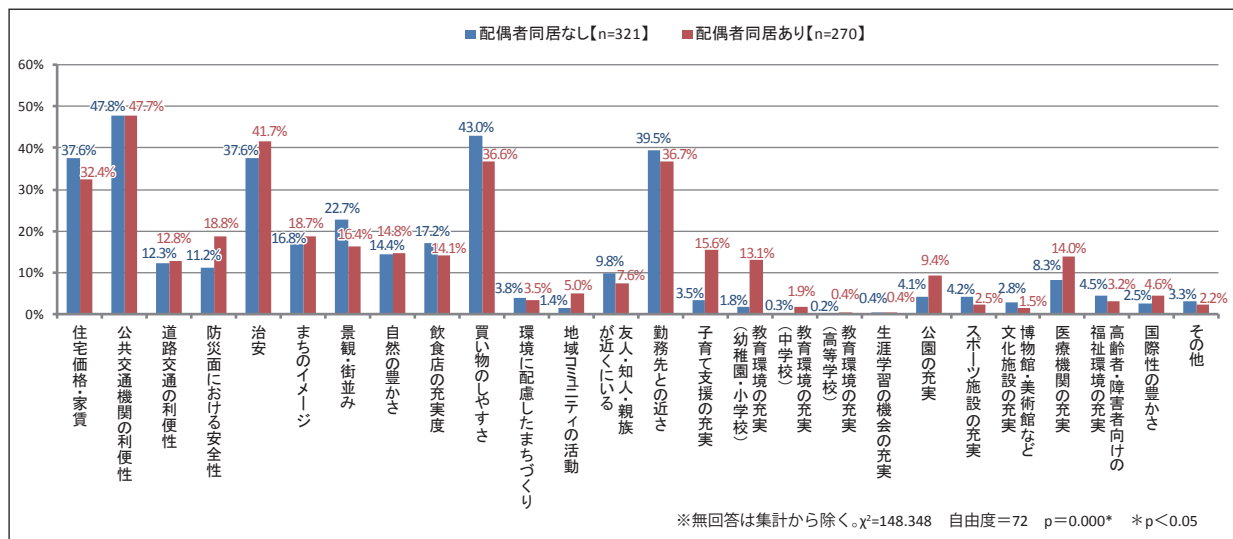
■調査結果

「配偶者同居あり」は、「公共交通機関の利便性」（47.7%）が最も多く、次いで「治安」（41.7%）、「勤務先との近さ」（36.7%）などが多くなっている。「配偶者同居なし」は、「公共交通機関の利便性」（47.8%）が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」（43.0%）、「勤務先との近さ」（39.5%）などが多くなっている（図表3-3-2-7）。

■特徴

「子育て支援の充実」、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」では、「配偶者同居あり」の方が「配偶者同居なし」より、それぞれ12.1、11.3ポイント高い。一方、「配偶者同居なし」が「配偶者同居あり」を大きく上回る項目はなかった。

図表3-3-2-7 引越し後の配偶者同居の有無別ふだん重要視している点



ク 引越し前の0～6歳児同居の有無別ふだん重要視している点

合計

引越し前「0～6歳児同居あり」では「子育て支援の充実」、「公園の充実」、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」、「医療機関の充実」の回答割合が同「0～6歳児同居なし」、引越し後「0～6歳児同居あり」と比較して高い。

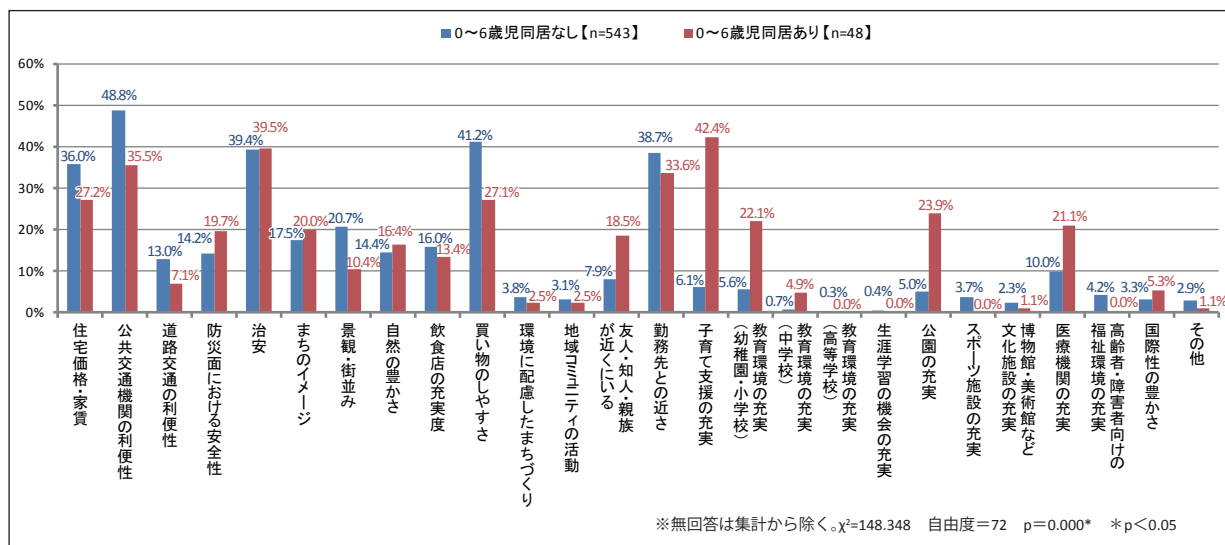
■調査結果

「0～6歳児同居あり」は、「子育て支援の充実」（42.4%）が最も多く、次いで「治安」（39.5%）、「公共交通機関の利便性」（35.5%）などが多くなっている。「0～6歳児同居なし」は、「公共交通機関の利便性」（48.8%）が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」（41.2%）、「治安」（39.4%）などが多くなっている（図表3-3-2-8）。

■特徴

「子育て支援の充実」、「公園の充実」、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」、「医療機関の充実」では、「0～6歳児同居あり」の方が「0～6歳児同居なし」より、それぞれ36.3、18.9、16.5、11.1、10.6ポイント高い。一方、「買い物のしやすさ」、「公共交通機関の利便性」、「景観・街並み」では、「0～6歳児同居なし」の方が「0～6歳児同居あり」より、それぞれ14.1、13.3、10.3ポイント高い。

図表3-3-2-8 引越し前の0～6歳児同居の有無別ふだん重要視している点



ケ 引越し後の0～6歳児同居の有無別ふだん重要視している点

合計

引越し後「0～6歳児同居あり」では「子育て支援の充実」、「公園の充実」、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」の回答割合が高い。

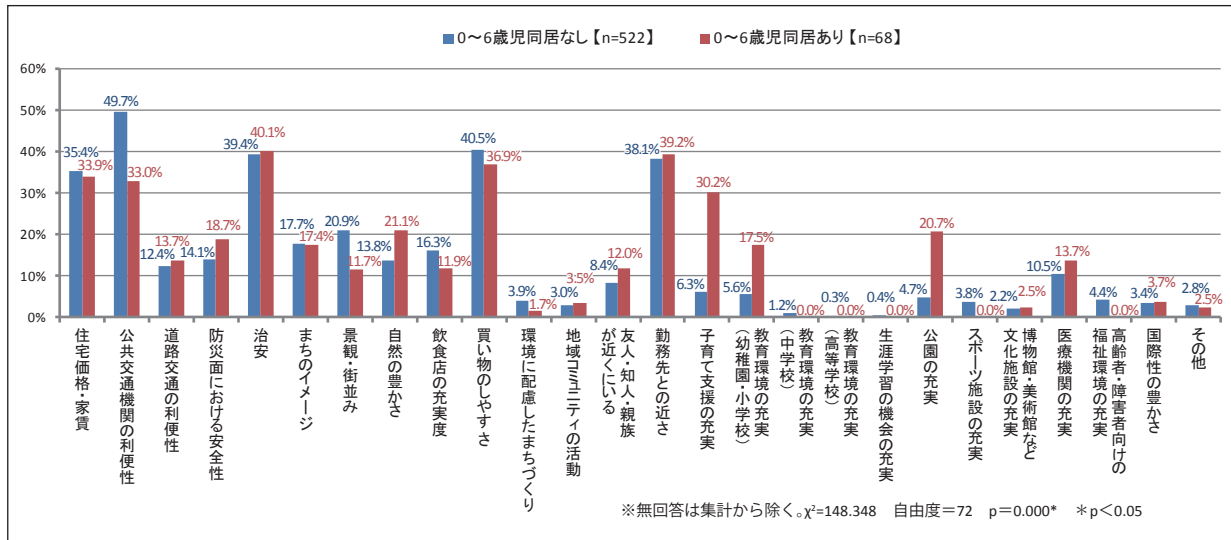
■調査結果

「0～6歳児同居あり」は、「治安」（40.1％）が最も多く、次いで「勤務先との近さ」（39.2％）、「買い物のしやすさ」（36.9％）などが多くなっている。「0～6歳児同居なし」は、「公共交通機関の利便性」（49.7％）が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」（40.5％）、「治安」（39.4％）などが多くなっている（図表3-3-2-9）。

■特徴

「子育て支援の充実」、「公園の充実」、「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」では、「0～6歳児同居あり」の方が「0～6歳児同居なし」より、それぞれ23.9、16.0、11.9ポイント高い。一方、「公共交通機関の利便性」では、「0～6歳児同居なし」の方が「0～6歳児同居あり」より、16.7ポイント高い。

図表3-3-2-9 引越し後の0～6歳児同居の有無別ふだん重要視している点



コ 引越し前の住宅の所有形態別ふだん重要視している点

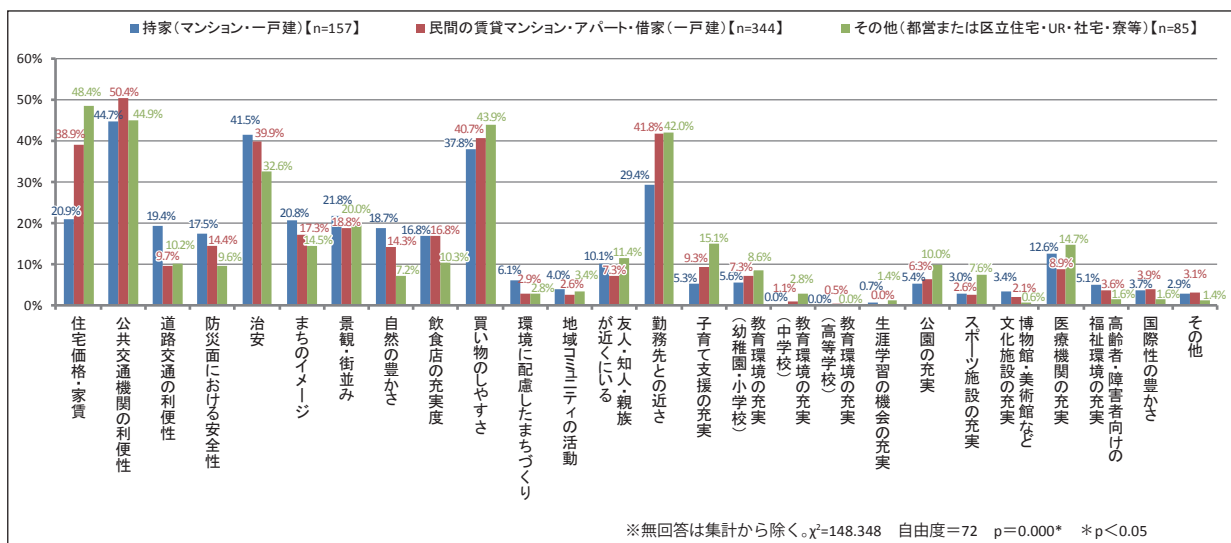
合計

「持家（マンション・一戸建）」は、「道路交通の利便性」が他の住宅の所有形態より高く、「住宅価格・家賃」、「勤務先との近さ」では他の住宅の所有形態より低い。

■調査結果

「持家（マンション・一戸建）」は、「公共交通機関の利便性」（44.7%）が最も多く、次いで「治安」（41.5%）、「買い物のしやすさ」（37.8%）などが多くなっている。「民間の賃貸マンション・アパート・借家（一戸建）」は、「公共交通機関の利便性」（50.4%）が最も多く、次いで「勤務先との近さ」（41.8%）、「買い物のしやすさ」（40.7%）などが多くなっている。「その他（都営または区立住宅・UR・社宅・寮等）」は、「住宅価格・家賃」（48.4%）が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性」（44.9%）、「買い物のしやすさ」（43.9%）などが多くなっている（図表3-3-2-10）。

図表3-3-2-10 引越し前の住宅の所有形態別ふだん重要視している点



■特徴

「持家（マンション・一戸建）」は、「道路交通の利便性」の回答割合が他の住宅の所有形態より高い一方、「住宅価格・家賃」、「勤務先との近さ」では他の住宅の所有形態より回答割合が低いことが特徴的である。

サ 引越し後の住宅の所有形態別ふだん重要視している点

合計

「持家（マンション・一戸建）」は、「まちのイメージ」、「飲食店の充実度」の回答割合が他の住宅の所有形態より高い。

■調査結果

「持家（マンション・一戸建）」は、「公共交通機関の利便性」（46.3%）が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」（41.1%）、「治安」（34.3%）などが多くなっている。「民間の賃貸マンション・アパート・借家（一戸建）」は、「公共交通機関の利便性」（48.6%）が最も多く、次いで「治安」（44.4%）、「勤務先との近さ」（42.1%）などが多くなっている。「その他（都営または区立住宅・UR・社宅・寮等）」は、「公共交通機関の利便性」（49.5%）が最も多く、次いで「買い物のしやすさ」（45.8%）、「住宅価格・家賃」（44.4%）などが多くなっている（図表3-3-2-11）。

■特徴

「持家（マンション・一戸建）」は、「まちのイメージ」、「飲食店の充実度」の回答割合が他の住宅の所有形態より高い一方、「住宅価格・家賃」、「勤務先との近さ」では他の住宅の所有形態より回答割合が低い。これは、「図表3-3-2-10 引越し前の住宅の所有形態別ふだん重要視している点」でも同様の傾向が見られる。

図表3-3-2-11 引越し後の住宅の所有形態別ふだん重要視している点

